



全  
部  
了  
了

著  
者  
野  
村  
胡  
堂

子  
合  
意  
冊

利  
1717



利13  
1717  
春

肥後序



わが身は...の心持く...八十...  
海を...の...の...  
わが身は...の...  
乃。吾の事...  
此。あや...  
高利...吾友...  
是



わ。家と云はる。文をよむ。母と云ふ。本能  
系也。一と云ふ。わ。わ。わ。又。わ。わ。わ。も  
ふ。つ。く。人。な。し。會。押。家。良。地。大  
師。代。ゆ。ら。つ。く。は。言。ハ。結。結。月。夜。夜。あ  
り。く。く。き。る。ご。く。時。幽。不。結。結。り。る  
さ。海。よ。ち。ん。た。も。の。も。く。き。ん。會。結。り  
く。り。一。同。え。む。し。ん。あ。つ。り。つ。も。く

お。ひ。先。く。く。ん。ご。よ。あ。一。物。物。物。と  
書。を。結。り。く。家。よ。身。す。あ。不。定。よ。結。る  
お。終。少。く。事。ハ。漕。舟。此。跡。り。い。い。い。も  
す。り。あ。つ。の。あ。も。ご。胡。々。い。き。結。く。も  
い。い。本。と。も。ゆ。考。へ。合。を。え。か。の。母。ふ。く。り  
あ。え。む。物。と。し。つ。る。不。讀。ゆ。て。る。合。言。い。い。い  
こ。す。る。人。中。の。蓋。也。結。書。も。あ。あ。あ。あ。あ。あ。



又さうふ水餅たにと男おとこけしるふ。此こゝもた  
 と命いのちをさかすまゆとてゆつとくばとて。ふ  
 妙川たみ色いろは事ことふとて。書屋やまがわがふとて  
 而しからふ。妙。

大神太交藤原加祿志道

芳野物語

目錄

卷之一

第一條

味あじ留どめの孫まご他た女むすめと男おとこ乃なり子こ跡あとま  
 うく

第二條

太宰府たさいふの石いし丸まる勅しつ使し文ぶんく弓ゆみ射やる疾はや  
 と石いしまわらぬ天あま宮みやの孫まごを電でん燈とうりか

卷之二

第三條

友とも系けい念ねん丸まる石いし村むらを参まゐりてあららせらるる者もの系けい  
 真まこと員いん押おし勝かつを討うてはたたぬあり



第九條

道祖王御船にめされく道祖王御船  
押勝後小原

卷之三

第八條

金丸角丸が腰を替く兼佐保乃大逆  
に首の事原

第七條

兼佐保御船を御守りく御守り  
隠る白猪老人御守り御守り

卷之四

第六條

兼佐保御船を御守りく御守り  
御守り御守り御守り御守り

八東國よき原

第五條

兼佐保御船を御守りく御守り  
御守り御守り御守り御守り

卷之五

第四條

兼佐保御船を御守りく御守り  
御守り御守り御守り御守り

第三條

兼佐保御船を御守りく御守り  
御守り御守り御守り御守り



卷之六

第十一條

守於が穿羅比ゆらるれく信丸金丸  
信を遣ふ信丸が妻子金丸の頼り  
て紀伊西よゆく

第十二條

山崎清丸乃妻子代望んを信丸の旨番大老  
刀を奪ふる事小次人く伊吹山より

卷之七

第十三條

兄のそとぬうみちとものりて  
是が赤糸赤糸の江見後研目く赤糸の  
兄弟の偏く信丸乃妻子伊吹山より  
人く信丸のとりられとて

第十四條

信丸のそとぬうみちとものりて  
赤糸の江見後研目く赤糸の  
兄弟の偏く信丸乃妻子伊吹山より

卷之八

第十五條

二人の大坂軍軍を信丸の  
ハヤレる信丸の妻子伊吹山より

第十六條

大坂軍軍を信丸の妻子伊吹山より  
信丸の妻子伊吹山より  
と白山に送りし心

卷之九



第十七條

守大伴名祿家持糧を白山より解る矣  
和岳劫志を力おむの飯よ来る

第十八條

信丸を丸もさる所より妻子にわらく  
とりおれく仔細のり

卷之十

第十九條

人置の志緒韓白の大神金体之かは  
孫弓をの俊雄臣常侍むらふ

第二十條

己方の俊雄人志の志緒臣民孫弓を  
孫力之志緒臣民

卷之十一 是より後篇不出

第廿一條

弓矢連も力盗賊をゆるく神俊及臣民  
と傳りる弓矢連足柄と名の志む孫弓を  
孫弓をの俊雄臣民

第廿二條

弓矢連足柄俊雄が罪状ゆら孫弓を  
と傳りる弓矢連

卷之十二

第廿三條

弓矢連足柄俊雄と死に孫弓を力考ふ乃  
と傳りる弓矢連

第廿四條

弓矢連も三河遠はよ志のび文石倭蜂  
かすの人の村室を奪ふ孫弓を飯の志む



卷之十二

第九六條

たらしむ  
よかにしるす

國々の弘孝天皇乃於よのつらみ乃於後まか  
ましく大伴宿禰書持伴白山よびるん志めん

とん

第九六條

光明皇后俗室をまきくまらるる性本乃

人をらるひのふを言あつて皇后より体

かろ

卷之十四

第九七條

皇后ひそかの書持よまのひまきくしり

りしたまふ美書お佐備の所女より

を情む

第九八條

書持白山よびるひく致め美書お致め

死に

之十八

第九九條

大伴宿禰家持世中をひ死立のよ

美書持か思魂わくおおまあみゆ

第二十條

致る言新世身よりく御所書美

狩虎兄身臨鏡衣被の二王御り

奇九子



卷之十六

第九一條

はるはる足元はよりくえうとてうの  
兵家清心園の軍兵はゆくゆはよとる  
蝦夷の標梁カムイボラデントビカラ後湯のこ  
わくはゆはりある

第九二條

テントビカラアヌ人なるふ

卷之十七

第九三條

奇九が文和傳より列る兵家清心園の  
くろは内親王をわく急派

第九四條

是凡らうくトビカラに内親王を待さ

卷之十八

第九五條

志心兵トビカラ神孫の貴元をゆめく  
こしくくあさぶ

第九六條

恒焼王恒焼とさうく清香王の娘に  
かさらふ兵守松永王御射殺は

卷之十九

第九七條

精虎兄兵守松永王つけどらる兵姫は  
て死ふよらうく清香王らみと

第九八條







第四十六條

の老保亦くまげくとどとも金明いんめいに  
にありとこりより行きてまよ候うかひ死しに  
揚生紀やうせいぎ日本言よまこと法はふ智ち小并珠名こなまが毒どくととも  
に何る丸まるよつふ

卷之十四

第四十七條

何る丸まる船ふね沈しづうとく樂たのしみむそあへり死し  
魚うい何る丸まるをううぬふ  
海人あまの男をとこ枝え磯いそ信しん何なによよ家いえ小并こなま男をとこ枝え磯いそよ  
るる丸まるををぬぬふ

第四十八條

卷之二十五

第四十九條

何る丸まる箱はこ船ふねの店みせよよどど地ち金かねよよつつふふ候まう  
我われ柱はしら女をんな亦また能あた優う死し候まうに  
何なにが毒どく珠たま名なが毒どくととりりよよ何なにる丸まる子こ殺ころさ  
る并珠なま名な揚あ生せい紀ぎををぬぬふふくく舞ま面めんへへ何なにる

第五十條







才一條

味指の翁仙女と交りて百人の子孫まうく

飛鳥傳見系に沖代志ろ一めはこゝ天武天皇ありらん昔跡乃里に  
味指の翁といふものありたり世乃業もあがりし故昔世の川よ海津  
たらく能成とろく飯飯に一足沖業とく世を己らひたり  
まると死門の廻におく能也あつむとあひ能葉のまをこらり  
るる能ハひとりも考て大なる杯の枝葉の乃能れかりとく傳り  
ける能未の魂乃能の枝々是が能うく水の能書バこそ能也あ  
ぬならあこ是とさうけげく川の末へ流しさむとらるる能の能  
人のごらくおつひく田能を流るひを家にゆくかりぬと能の能

能あつと能ひひるる。いあが能まきく持たりされが。その能乃  
かつ枝より一寸をうる能美し能見のまひおろとみしが。る  
かうらにひびくととまをく。たけきく細き能くけらひと  
貴能志通女と化り。白能あきおかさねる能のうへは能能  
能の能能とりかけ。能る能能を能こめ能、能る能をこ  
かこ。いとあてやる能る能して能能乃能毒とるくいひは能能  
千年能も能能えんと能ひふるうとまこえ。さくを能の能と能  
て能よ能くべ枝乃本より能あよかけく。百能よ能能くと  
いハ能能能くよは能りく。百能よ能り。能を能るよ能能  
とやせハ。百能乃能ハ能とみるうとさく能る。百人の子あり



といふ其ハ又いふもく此の事のみと聞ハ未通女言くく。  
 此百辰の枝ハ只今の間ハ世ハ死にさうく。百人乃ひとく  
 生れおんといふ言はく。さるもくも神くがみあくとむらふ  
 といふあやや侍るんとやせハ未通女言く。されハあや  
 かつ枝ハ中人と生れお。そく細きハその官人となれ  
 〇末の枝乃りそ死ハもね蒼生と生れあくと。此処にいゆさ  
 彼処よとさまり。世の有りさ。後の言を建く。終ハ我く  
 〇此の間にあり集ん。その集る人ハ皆我子なりとあやせ。是  
 がさるあやとと告げり。その百辰乃枝を又川の邊より持  
 〇今も自と自とていへ。何の所やらん。は枝あるあさうい

〇此の間にあり集ん。その集る人ハ皆我子なりとあやせ。是  
 がさるあやとと告げり。その百辰乃枝を又川の邊より持  
 〇今も自と自とていへ。何の所やらん。は枝あるあさうい

第二條

人宰府の阿を丸物法けく。可判り後を自  
 事。其言所て言る。後と毫姑たりふ  
 飛鳥傳見。天皇。河位。河。度。和。雁。天皇。お流に。傳り。た。ち。ふ。に。う。り。河。卷。示



の夫より下流ありしあり又津位正を継ぎ天皇は武にゆづりたまひ  
つごよき國必難天皇ハ元明宣勅津赤良よりうすひく。津位正は  
足如天皇元正ぞうけつをせりふ波よを禰彦天皇ハ聖武津位正に傳  
同親王にゆづりふお別是る新天皇孝徳よそいあそかりなる。天皇を  
るる津船抄をいまたよあり。百官あひまびくけりなるに太宰府  
の河を丸のけりく船よのやうくまがりなるが養うくゆさく。伊予の  
國河割の度よ河割の後を津位正をさるハ役小角がけりし津  
つごよきふあり。つごよきに其論を記とあくそ是津めく津  
津位正はふまうせりるんハたらまち大津の傳くくさる地と  
んとあえらるに。大津位正は見うけひりせり。其のけしきをいふハ  
うぶをせりひて。別河を丸の船よありく伊豫又あり。そのり後  
をりくあれとるん。徳見のさかひり。あまた河を丸かをまりを中  
て従者いといあり。中津急乃津後ありむ。津位正思くあはると元正  
猶室元年二月十日己の時よあ良の勅をわく。午の時よ大坂を津  
越の舟田。赤の障よ浪屋乃浦よ若く里ハ八里と載と記を三時を  
さんれハ。はる丸の舟に浪必の浦より沖津を鴨云船の小さくを  
迷くゆり。撥子四人を立。撥子二人を立。従者ハ浪花よとあ良人  
を側よさびりせ。申のど記をるむりに漕おたり。風あく速ひ  
うに撥子どもを津さかみと力をそく漕撓一か八十里をう  
のゆるを其東の間に速ひたり。十日の曉河割の度よあ良。

うぶをせりひて。別河を丸の船よありく伊豫又あり。そのり後  
をりくあれとるん。徳見のさかひり。あまた河を丸かをまりを中  
て従者いといあり。中津急乃津後ありむ。津位正思くあはると元正  
猶室元年二月十日己の時よあ良の勅をわく。午の時よ大坂を津  
越の舟田。赤の障よ浪屋乃浦よ若く里ハ八里と載と記を三時を  
さんれハ。はる丸の舟に浪必の浦より沖津を鴨云船の小さくを  
迷くゆり。撥子四人を立。撥子二人を立。従者ハ浪花よとあ良人  
を側よさびりせ。申のど記をるむりに漕おたり。風あく速ひ  
うに撥子どもを津さかみと力をそく漕撓一か八十里をう  
のゆるを其東の間に速ひたり。十日の曉河割の度よあ良。





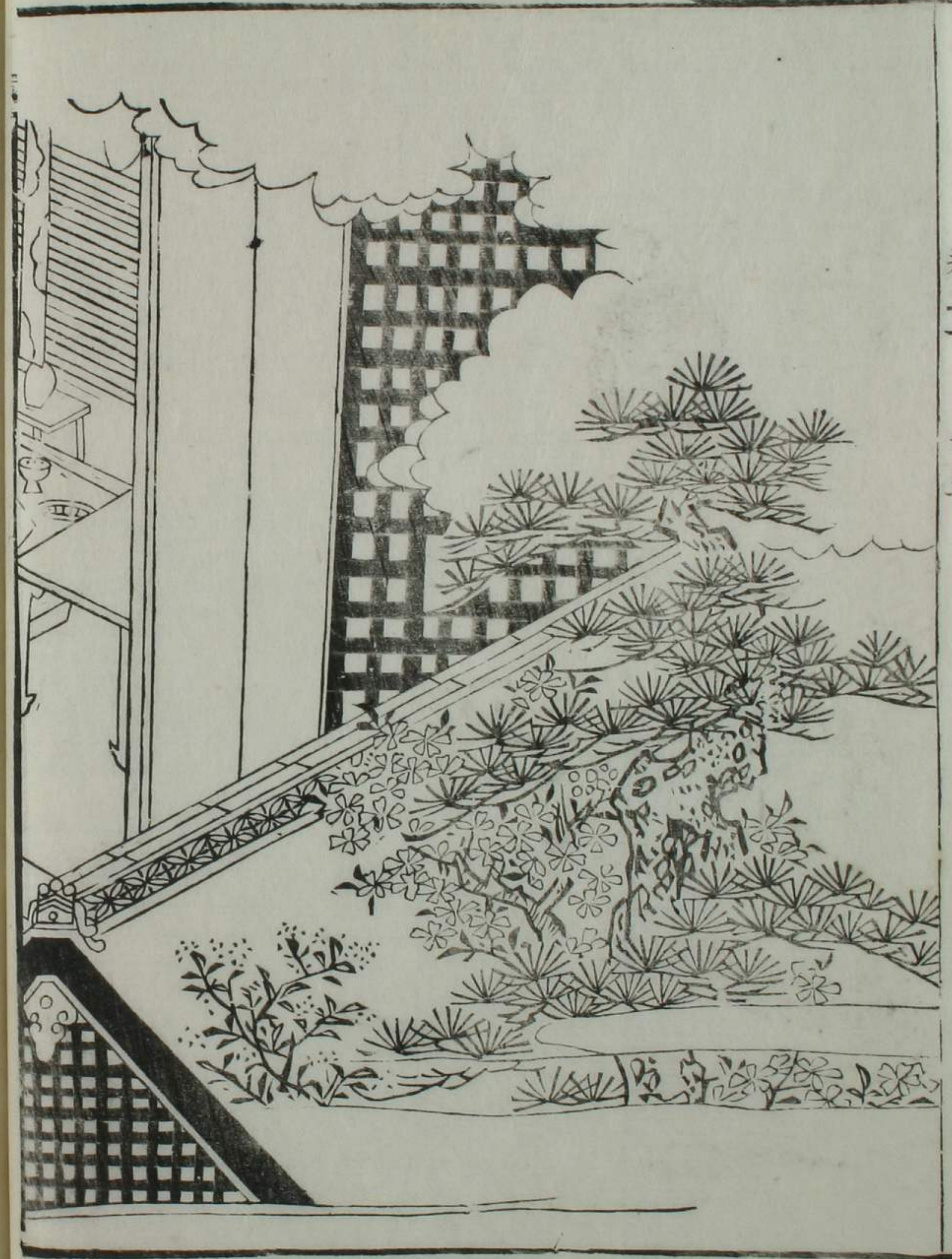










































て舟人とのりお義を渡りてこれ我も網にひかりていひま。  
人おびあむむあはたよ遠く家まで此舟の思ひお船決たあ。船又  
らバ帆を捲く三尾旗まうう。まむと中に南無呂よりよあうん  
とあう。備は持てをたう。舟船あらせ。夜寝どもおぼく。ちかむと  
とこのお船あよから。さうお義を渡りにかひあづれたあや。船を十丁  
むうり持か。けよ船及おと。あはよ。美田船老軍兵御ね。船  
五石船内親王乃何と決算く。大津のまにまうりら。舟人を  
か船まよのまへ人ぞ。まより船あよあう。この船のあうりまう。一と  
備あむびや。同め。舟人ども昔さういふ。さうはよ乃女決り。船  
從船よりされたるハ是び。さびつと此船方より。舟人の三人あう。に  
り。舟船よあう。わく。網あう。せ。舟をどさあう。一と。船びの六  
と此被るる十丁まう。かおこの舟のよ。とらひ。此船のみまう。  
はのよ。たのひ。さるがまう。つとよ。と美田船まう。さう。三人あれ  
バ船まう。わ。地まう。ん。ま。舟人どもが様。とま。や。あ。ん。と。あ。ひ。船  
ひ。か。ま。も。わ。れ。い。た。く。み。ん。早。船。備。あ。せ。と。昔。ま。う。よ。此。船。十。人。ま。う  
を。さ。う。し。あ。り。せ。持。子。八。人。も。備。ま。う。せ。た。れ。が。一。船。乃。息。の。同。め。船。た。だ  
る。ま。く。あ。う。ぬ。船。ま。い。あ。く。ひ。ち。と。せ。て。ま。た。ま。あ。お。遊。び。く。ま。あ。り  
た。る。ハ。あ。ま。ら。ん。船。の。よ。さ。う。う。ひ。き。と。船。決。か。り。し。船。ハ。只。た。だ  
よ。う。せ。て。あ。う。り。あ。ら。る。に。美。田。船。老。ち。う。く。系。船。是。ハ。い。つ。わ。る。ひ。あ。り  
さ。あ。た。か。と。船。を。バ。船。ま。う。め。く。せ。う。う。ら。船。を。た。ま。ひ。せ。乃。舟

舟人

舟



いと強がし。かく船隻とてくはるるの事代を乃由あるびとつらあま  
 ざる。塙鏡王太敷王を執らませば。右子も死すもあはれは海狗  
 なる。我ハその船体踏かまけ。天の運もさうらほし。青葉屋  
 世れよりとやせとのこまひとらん。血氣あつては持せたあふ。まはる  
 老はくく。由利権はつらむ。後よ押勝は所んさう。とまひ  
 かが。ゆつとと。奏しをん。とや。又大陣乃るゆさ。と。曹府の  
 主二人にむひて。あくもかくをひつ。とあやうか。と。このた  
 みの。秀ん。び。ま。ぐ。り。と。あ。る。高。松。の。所。に。お。も。せ。く。は。食。を。と。ま  
 へ。る。と。さ。く。秋。も。も。る。れ。が。恒。伊。徳。と。只。一。時。よ。之。尾。が。後。よ。遊。ひ。つ。ま  
 ぬ。る。よ。押。勝。が。危。命。を。大。陣。と。り。月。の。光。は。さ。さ。う。も。あ。ら。ね。ど。

船体めぐる。大陣を常とる。高松の所。に。お。も。せ。く。は。食。を。と。ま  
 たる。兵。を。ま。る。隅。の。層。橋。も。遊。び。つ。け。く。若。く。の。射。を。の。せ。門。を。ま  
 め。松。を。お。し。り。ま。ら。ぶ。か。ま。未。の。つ。ま。を。ま。る。あ。し。は。た。ま。さ。く。より。来  
 る。く。あ。た。り。又。う。ち。あ。だ。く。これ。が。も。旗。を。ま。る。旗。ハ。ま。る。び。地。を。み  
 だ。れ。く。さ。く。後。鳥。は。吹。ま。れ。たり。又。乃。内。舎。人。は。ま。り。破。を。や。ま。か。く  
 鑽。く。さ。む。ら。あ。よ。あ。り。う。え。な。ま。を。び。新。を。い。く。や。け。く。さ。む。ら。は。行。く  
 曉。も。さ。り。ほ。り。ん。の。さ。の。が。く。さ。む。ら。ん。と。此。隅。の。層。橋。より。ん。通  
 せ。ん。死。す。も。君。と。バ。も。あ。ま。り。官。ら。八。冠。を。い。く。し。後。が。き。つ。ら。ひ  
 て。茶。く。は。り。さ。ら。大。陣。の。軍。兵。も。ひ。え。と。か。め。く。ま。ら。む。ま。あ。り  
 押。勝。も。さ。く。ゆ。り。で。押。勝。又。橋。の。あ。り。さ。う。か。ひ。な。ま。ら。し。と。そ。て。そ。て







天宮と天宮乃勅よりく。空飛ちりてめは死するべ。天宮

いそぐりに物ありとも。押く河原よと勢ひつ死くもさすのこりりと

毛同大城乃門守死すく。官軍千方の勝をもく。大将は

及系念丸石村村とさむじたり。赤の軍兵未走集は。大城乃

うらハ儀は千はみさるる共るれば。その勢乃護ひが死をたけふ

カのも多くとて。押勝ははくかともありひめぐもあると

いひくまは石と向ふともふは死す幾りやう。あさる。かると官

と必死あをせられく。押勝をのぞきせあると世もやせん。と

ると死ハ天宮の血憤りつものく。官は戦よりうらあけたらんと

き。必命もも及びるんと。いひものがいと苦死。官軍只城のあ

は。必命もも及びるんと。いひものがいと苦死。官軍只城のあ

は。必命もも及びるんと。いひものがいと苦死。官軍只城のあ

は。必命もも及びるんと。いひものがいと苦死。官軍只城のあ

は。必命もも及びるんと。いひものがいと苦死。官軍只城のあ

は。必命もも及びるんと。いひものがいと苦死。官軍只城のあ

は。必命もも及びるんと。いひものがいと苦死。官軍只城のあ

は。必命もも及びるんと。いひものがいと苦死。官軍只城のあ

は。必命もも及びるんと。いひものがいと苦死。官軍只城のあ

は。必命もも及びるんと。いひものがいと苦死。官軍只城のあ

は。必命もも及びるんと。いひものがいと苦死。官軍只城のあ

は。必命もも及びるんと。いひものがいと苦死。官軍只城のあ

は。必命もも及びるんと。いひものがいと苦死。官軍只城のあ

は。必命もも及びるんと。いひものがいと苦死。官軍只城のあ















第五條

考丸角丸が懸河焼く系佐保の大道は首成  
系保

倉森呂村を乃二人ハ。考丸角丸ヲ欺きて。その死骸をいり。二玉の  
出骸をうとせり。い。権さよの。おまよをさあをなり。は。後。おまよ。ちり。か。を  
らんと。おひ。居。よ。又。た。り。い。わ。ぐ。く。く。お。後。く。日。我。物。体。舞。り。人。  
呂押猪河討。二死の。も。あり。二人。乃。玉。を。殺。し。な。れ。と。は。り。ひ。ひ。ま。ハ  
り。は。是。ハ。不。意。か。く。大。獲。の。財。も。た。り。は。は。撲。さ。ま。よ。み。又。よ。伎。く  
雲。か。ら。れ。ま。し。ぬ。る。河。出。骸。い。く。疾。つ。死。く。は。る。よ。は。後。よ。ち。か。く。一。を  
ら。は。我。い。た。く。責。ま。り。と。お。り。く。五。の。か。り。を。さ。り。な。る。六。その



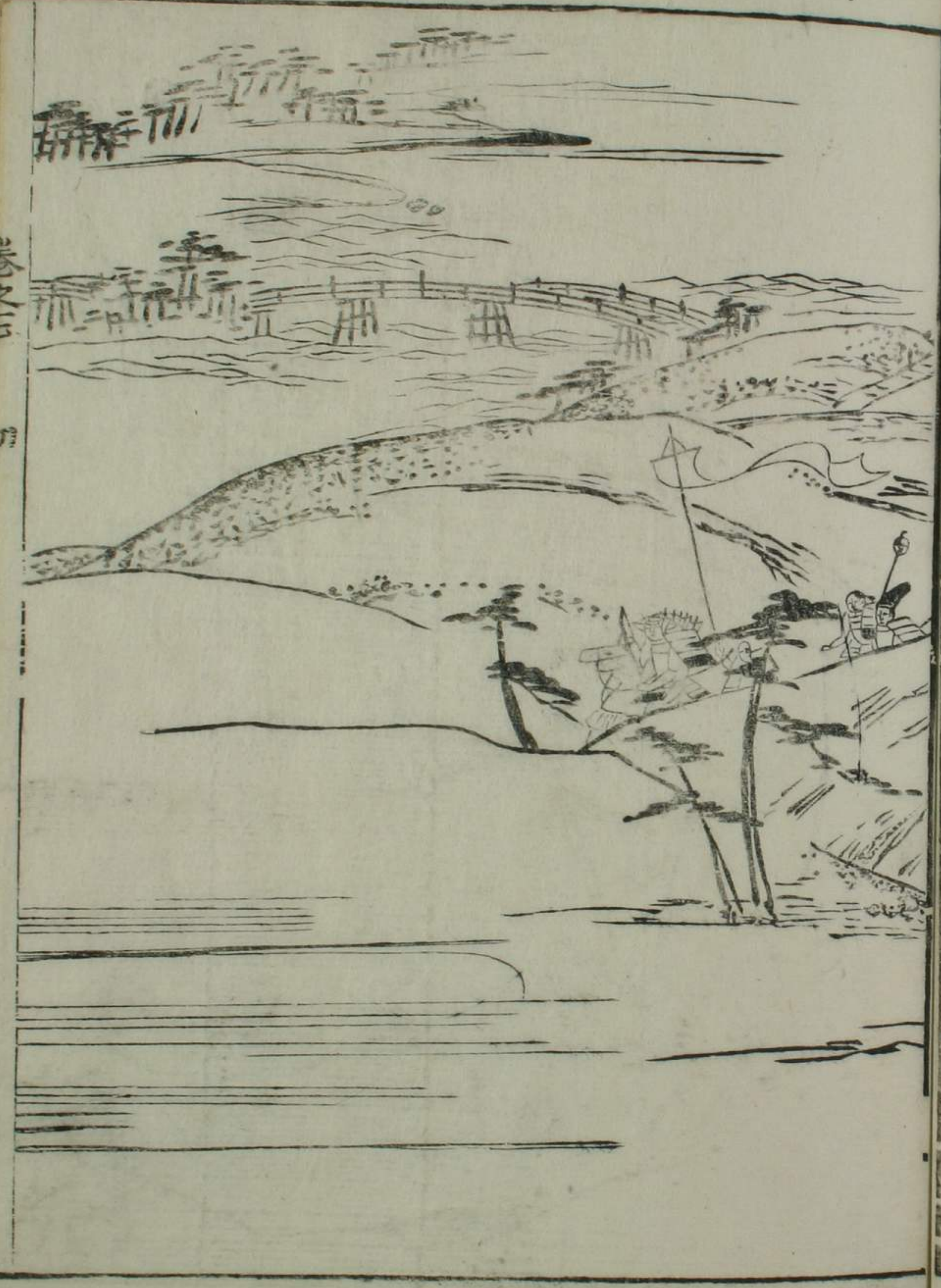
此とつり伏しうよせん。又我ハ緒々其ノ軍兵ハうららる。大協たけがかり様  
 こころひくさむいふとも。押勝が首ハゆらうとやさかひの死あかぬむむとや  
 せりるさん。さういふせんからハとやせんまると。今ハ協たけがかり様軍師ぐんし仲集なかつむねの  
 く。控とらむいりもさくさくさう。軍師仲集に物もの給たま成なりとらあめあひめく  
 うさく。回まわる官軍くわんぐんの道みち程ほど主しゅ壇だん境さかい主しゅ。直ただ高たかハ押勝をたのこがわし。こ  
 わ小この大協よこりりませうとも。やび城じやうにわかこまのうさくさくさくよ。  
 官軍くわんぐん乃なち申まをす。時ときも傍たがひ風かぜ乃なまげし。わらうよまあさく。あめさうの團かこ  
 を籠かこむらんときさく。大門たかどを巨おほく火ひつけくさむいひよ。あめまた  
 がつ軍兵ぐんべい走はしおゆる。ゆりある勢いきさ付つて。多くの軍兵もうちとら  
 ぬ。さうよび風のやからうさくいとらうさく。ゆるまあま。中門ちゆうもんもも出でつ死  
 てゆよ。あ人も責せ入いがて。籠かこりたるもお新あたらくや。ゆるらん。我われあさ。いふあ  
 ひくさく。うららる。中門ちゆうもん乃な橋はし。冠かん装さう束そくたる貴人きじん乃な三人さんにんまぐいひく  
 ねさく。いさく。いさく。ゆらげて。苦くるく。のまうく。我ハ是こゝを子こ道みち程ほど主しゅ。  
 我ハこれ兄あにまぐ。壇だん境さかい主しゅ。押勝をたのこ。勢いきさひく。は。協たけがかり様よこりりく  
 てるが。天あまの所ところいさ。地ちの死あかぬむ。又またさび。今いまも。玉たま付つ。神かみ井い。ゆらとま  
 をさひまらく。黄わう々々主しゅ。あつ。あつ。わうと。苦くるく。さつ。せ。た。あ。ひ。例れい  
 又またさ。ゆら。官くわん女にょと。地ちが。死あかぬむ。と。ま。あ。は。是こゝハ。石いし。道みち。程ほど。主しゅ。な。り。  
 是こゝハ。あ。く。わ。く。な。ら。う。か。ど。ん。と。び。せ。つ。ら。ま。あ。今いま。付つ。ひ。な。ら。う。と。の。こ。こ  
 あ。ひ。ち。か。ゆ。め。死あかぬむ。さ。く。ね。し。た。あ。ひ。さ。そ。は。兄あに。弟てい。乃な。ま。八はち。互ご。よ。は。備び  
 さ。う。ゆ。さ。く。か。ら。れ。の。ふ。さ。る。あ。ま。ゆ。え。ま。り。居い。か。ど。い。さ。く。さ。く。さ。く。い。

此とつり伏しうよせん。又我ハ緒々其ノ軍兵ハうららる。大協たけがかり様  
 こころひくさむいふとも。押勝が首ハゆらうとやさかひの死あかぬむむとや  
 せりるさん。さういふせんからハとやせんまると。今ハ協たけがかり様軍師ぐんし仲集なかつむねの  
 く。控とらむいりもさくさくさう。軍師仲集に物もの給たま成なりとらあめあひめく  
 うさく。回まわる官軍くわんぐんの道みち程ほど主しゅ壇だん境さかい主しゅ。直ただ高たかハ押勝をたのこがわし。こ  
 わ小この大協よこりりませうとも。やび城じやうにわかこまのうさくさくさくよ。  
 官軍くわんぐん乃なち申まをす。時ときも傍たがひ風かぜ乃なまげし。わらうよまあさく。あめさうの團かこ  
 を籠かこむらんときさく。大門たかどを巨おほく火ひつけくさむいひよ。あめまた  
 がつ軍兵ぐんべい走はしおゆる。ゆりある勢いきさ付つて。多くの軍兵もうちとら  
 ぬ。さうよび風のやからうさくいとらうさく。ゆるまあま。中門ちゆうもんもも出でつ死  
 てゆよ。あ人も責せ入いがて。籠かこりたるもお新あたらくや。ゆるらん。我われあさ。いふあ  
 ひくさく。うららる。中門ちゆうもん乃な橋はし。冠かん装さう束そくたる貴人きじん乃な三人さんにんまぐいひく  
 ねさく。いさく。いさく。ゆらげて。苦くるく。のまうく。我ハ是こゝを子こ道みち程ほど主しゅ。  
 我ハこれ兄あにまぐ。壇だん境さかい主しゅ。押勝をたのこ。勢いきさひく。は。協たけがかり様よこりりく  
 てるが。天あまの所ところいさ。地ちの死あかぬむ。又またさび。今いまも。玉たま付つ。神かみ井い。ゆらとま  
 をさひまらく。黄わう々々主しゅ。あつ。あつ。わうと。苦くるく。さつ。せ。た。あ。ひ。例れい  
 又またさ。ゆら。官くわん女にょと。地ちが。死あかぬむ。と。ま。あ。は。是こゝハ。石いし。道みち。程ほど。主しゅ。な。り。  
 是こゝハ。あ。く。わ。く。な。ら。う。か。ど。ん。と。び。せ。つ。ら。ま。あ。今いま。付つ。ひ。な。ら。う。と。の。こ。こ  
 あ。ひ。ち。か。ゆ。め。死あかぬむ。さ。く。ね。し。た。あ。ひ。さ。そ。は。兄あに。弟てい。乃な。ま。八はち。互ご。よ。は。備び  
 さ。う。ゆ。さ。く。か。ら。れ。の。ふ。さ。る。あ。ま。ゆ。え。ま。り。居い。か。ど。い。さ。く。さ。く。さ。く。い。



遮らぬくまをばらぬるのがらんぬもどるべ。火をこし焼通りこまを  
まの軍兵よやめく槽ふ槽よみ焼通り。只ほゆるご死をうらうらこ  
ひけとく。よこにそ死うけく侍るまに。幸苦しく中のまにひりて  
ころとも正體体おしをむじとあふらに。あふ押務も様よのぞり  
かのみ  
まよまあざれく死をこみえたり。さくもあひと死ね体おひりひ  
を破り様もゆがらく。二玉の正體。あひよ押務かどね決まの申よ  
甲おしてはとれい。さく焼されてゆ。又内親まの正體はとく欠  
乃うちにまざれたあふむ。借よ正體の焼のころさくゆのこあり  
とく。いさるあのみ。さくも様集りてとせなむ。又二玉の正體は今  
あふ城の内よなり。さく焼たぐらうまふん。さていさるあ人の様も  
われ首ゆさく焼集り。これ押務ありとておひらむ。けうは正  
一もぐらむ。又押務が家人よ名を死に死乃さむらあ体。十人の首  
を焼く大方は焼たぐらうさくもせわたり。大方よ名を並とぐら。今たの  
大方はあれとまひらと人すさむよ。と乃押務を又あつくとぐらん。  
我も録かううをむじ筋ありと。あく死あてやうよ。金丸村を  
これゆき。あくおひめぐらうたりと焼い。いさよあも押務おねあ死  
遠るもらうぬよ。さくさくあうらよまあざれうせらん。足敷くよ似く  
ゆのほび。さくさくせんそ。二玉の正體をあうか死あく持く  
り。焼のころさくさくねどもさあつあく。あふはさく焼集らう。又こま  
たかゆかかかか。首らあ首ゆひうひらあ。せうも押務よゆつ







況くもさうんをさくみまよくぬるぞひとろりる決ぬさうかこたう  
 ことな焼たらう。女乃警来ども乃驚くおろくもさる決是もさるん  
 西決さうく押さるの焼たさくくつ決ひ死あさく。石徹百親を  
 又驚くべくし橋へ押搦が以下乃首すたよ死さあふつさくひとろ  
 くる決さうくこれ決立軍共のり烈死正し。旗決立海決立。  
 我ま搦る位候をのべゆ決りり交を信ひ。誠まうらあさく。さく  
 け烈決整へぬ田決りり石山決都え。宇治をさ。桂川を信り。  
 赤良山決越くあよ入るぬた右の吾勝督を向ひく。ひとろりを  
 心し。我乃りりさま始終妻細奏し。れば。天皇大所を共ら飛りひ。  
 かくことらげせびとろそハゆりり。二王乃山殿る。うびよあ徳目おん  
 の山殿ハ所位乃例をせら。豊く。山蘇を住ま。又押搦をさく  
 ぬ以下の首ハ位係の大乃まあさく。これ決さく。る決又死まあさく。せよ  
 とのさまらん。又倉丸村を軍沙物初末ハ。山蘇よめされく。山恩賞  
 を兼り。軍共どもハ例よまあせく。録つうくたまり。世の中いと  
 志づうよさりよる。

第六條

官軍いさく責く。中の重乃忘。いよ大つ死くもさる。死。おのれが  
 家人のうらよ。事以。おひいたのめる。兵士。十人をさう。侍らる。決まぬ  
 意。弟。押搦。道。徳。主。決。お。なり。く。伊。吹。心  
 に。悪。多。白。猪。志。お。祖。主。決。あ。づ。う。を。家











のうちよハ。をうハ。武士のむねあらんも。せむしハ。べんれ。をまハ。五乃。所  
 眼めまたりし。まのひく。つ。の死人をバ。武士。ま。よ。の死人をバ。穢あやうま。よ  
 して。分ぶんお懸つ。ひぬん。さ。のハ。おの。ま。ハ。穢あやうま。る。れ。バ。よ。の。死。り。あり  
 と。お。が。え。ん。が。これ。み。ま。あ。ん。は。穢あやう乃。あ。く。ら。あ。る。この。穢あやう乃。を。と。は。決  
 る。ど。り。ひ。り。と。う。く。ま。ま。の。老。は。の。が。わ。く。今。聲こゑが。き。こ。え。を。お。ふ。こ。ま。ま  
 なる。り。う。ま。か。れ。ん。と。お。が。え。ん。は。穢あやう。こ。あ。る。こ。を。こ。く。ま。の。か。ら。よ  
 ね。く。く。の。身。乃。う。入。穢あやうる。げ。死。こ。ま。と。い。あ。よ。押。務。お。ひ。ぬ。ぐ。ひ。ひ。ひ。ひ。ひ  
 わ。れ。バ。よ。く。こ。も。き。く。た。ま。ふ。さ。う。ハ。お。あ。る。ぶ。の。み。あ。る。せ。ん。と。う。ハ。聲  
 き。く。く。の。ハ。あり。と。決。め。ら。う。て。ひ。く。乃。ハ。穢あやう板。よ。と。ん。れ。ど。と。こ。ま。ん。こ。う。く  
 ハ。林。木。系。い。と。ゆ。く。の。穢あやうで。く。く。ま。か。ら。あ。り。の。台。は。ま。さ。う。組。と。は

して。の。り。る。乃。の。れ。バ。月。ハ。よ。く。て。う。く。は。れ。ど。本。の。穢あやう乃。く。ま。さ。う。え  
 くれ。ハ。穢あやう乃。と。ど。い。は。ら。う。ぐ。み。く。ま。む。く。ふ。穢あやう乃。に。ち。ハ。い。う。の。も。お。は  
 ん。が。お。び。た。る。貴。人。乃。い。う。ま。お。う。ま。あ。ん。と。く。を。穢あやう乃。の。ま。く。ま。く。ハ  
 穢あやう乃。を。お。く。く。ハ。林。の。穢あやう乃。よ。の。死。牛。お。う。る。穢あやう乃。乃。と。ぶ。その。牛。は  
 さ。と。ひ。く。貴。人。を。ハ。穢あやう乃。を。む。む。その。う。う。も。穢あやう乃。み。ま。つ。ハ。其  
 子。牛。の。も。る。を。も。や。と。ひ。て。ま。あ。る。せ。ん。又。穢あやう乃。を。も。る。を。て。ハ。ら。う  
 ード。と。穢あやう乃。ま。ま。こ。ゆ。ら。よ。の。う。く。う。う。の。を。穢あやう乃。を。も。る。今。お。乃  
 う。ら。よ。その。お。乃。ま。み。の。か。ら。よ。あ。り。つ。く。ん。さ。う。ハ。牛。乃。ら。と。ひ。て。穢あやう乃  
 とう。く。穢あやう乃。あ。せ。バ。これ。い。と。う。と。と。只。穢あやう乃。乃。と。う。く。お。ま

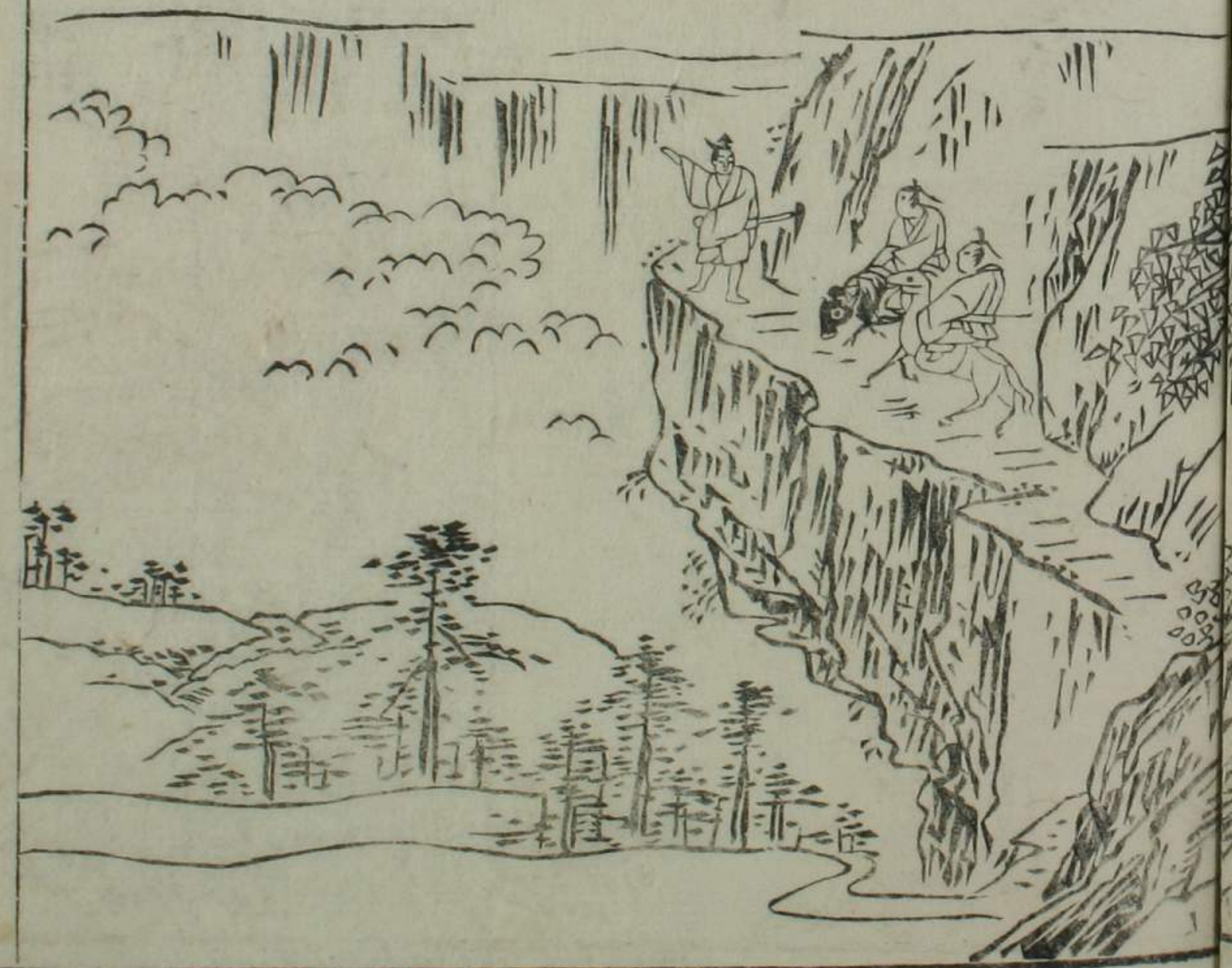
三ノ

ヒトツラ















て。山乃かかれよ。八まのひあつる。ササひうけごとく。うらたあぐく。又。押務公  
 志うの「う」と改りせり。さく。我兄の翁ハ難波乃浦よササれ。せめひ  
 ぬとうけり。うら一に。いづのさく。うの。家。以。けり。さ。あ。よ。ハ。い。り。と。い。ハ。老。翁  
 後。成。功。之。と。い。ハ。か。く。寧。ろ。れ。ど。も。切。敷。に。けり。我。ハ。功。も。さ。く。後。成。も。さ  
 くて。か。く。い。づ。り。入。老。翁。と。い。り。けり。た。る。よ。弟。乃。弟。も。面。依。る。さ。て  
 も。は。る。い。か。る。さ。く。一。即。弟。ハ。か。一。ら。み。な。れ。ど。も。踏。り。と。う。さ。く。後。成。と  
 さ。さ。ん。な。ん。ん。我。又。三。十。年。を。う。の。む。か。一。お。の。れ。い。と。こ。く。て。侍  
 ると。兄。公。の。い。ま。つ。た。く。難。波。又。弟。り。と。い。ひ。さ。む。う。ひ。さ。ま。の。こ。と  
 を。と。い。ひ。甚。秋。疎。を。あ。り。と。い。う。一。同。位。吉。の。か。侍。と。い。ハ。弟。乃。弟。と。い  
 けり。一。に。多。く。の。材。宝。疎。う。一。い。ひ。人。成。難。波。世。の。控。成。と。い。ひ。と。い  
 さ。む。い。り。さ。ま。の。う。あ。る。我。ひ。そ。か。よ。さ。の。か。弟。と。い。ハ。あ。る。せ。望。女。が  
 ころ。よ。の。の。せ。よ。か。れ。き。さ。え。ん。の。弟。志。浦。人。を。か。さ。い。ひ。乃。弟。乃  
 か。さ。い。ひ。者。必。難。波。の。浦。又。弟。乃。弟。は。く。は。た。う。く。と。い。う。り。さ。が。あ。る  
 ち。ち。く。ゆ。よ。う。の。と。や。ま。か。一。さ。く。その。か。弟。乃。弟。と。い。ハ。あ。る。の。う。ら  
 ハ。浪。笑。の。里。乃。領。而。は。隠。れ。甚。後。為。方。さ。く。う。弟。乃。弟。と。い。ハ。あ。る。く。  
 山。乃。梳。と。い。ハ。う。ら。一。が。い。と。い。ハ。か。く。あ。る。あ。る。く。ゆ。よ。の。その。あ。弟。乃  
 お。石。敷。今。い。は。ら。の。娘。成。さ。ま。あ。る。け。く。ゆ。よ。つ。た。と。い。ハ。あ。る。う。ら  
 う。う。か。く。る。さ。く。さ。く。い。ひ。さ。く。弟。乃。弟。と。い。ハ。あ。る。の。う。ら  
 氏。弟。乃。弟。と。い。ハ。あ。る。う。ら。て。侍。た。る。弟。乃。弟。と。い。ハ。あ。る。い。ひ。と。い。ハ。あ。る。  
 さ。さ。の。あ。る。人。と。い。ハ。あ。る。が。聖。依。山。依。の。の。を。め。入。く。弟。乃。弟。と。い。ハ。あ。る。

て。山乃かかれよ。八まのひあつる。ササひうけごとく。うらたあぐく。又。押務公  
 志うの「う」と改りせり。さく。我兄の翁ハ難波乃浦よササれ。せめひ  
 ぬとうけり。うら一に。いづのさく。うの。家。以。けり。さ。あ。よ。ハ。い。り。と。い。ハ。老。翁  
 後。成。功。之。と。い。ハ。か。く。寧。ろ。れ。ど。も。切。敷。に。けり。我。ハ。功。も。さ。く。後。成。も。さ  
 くて。か。く。い。づ。り。入。老。翁。と。い。り。けり。た。る。よ。弟。乃。弟。も。面。依。る。さ。て  
 も。は。る。い。か。る。さ。く。一。即。弟。ハ。か。一。ら。み。な。れ。ど。も。踏。り。と。う。さ。く。後。成。と  
 さ。さ。ん。な。ん。ん。我。又。三。十。年。を。う。の。む。か。一。お。の。れ。い。と。こ。く。て。侍  
 ると。兄。公。の。い。ま。つ。た。く。難。波。又。弟。り。と。い。ひ。さ。む。う。ひ。さ。ま。の。こ。と  
 を。と。い。ひ。甚。秋。疎。を。あ。り。と。い。う。一。同。位。吉。の。か。侍。と。い。ハ。弟。乃。弟。と。い  
 けり。一。に。多。く。の。材。宝。疎。う。一。い。ひ。人。成。難。波。世。の。控。成。と。い。ひ。と。い  
 さ。む。い。り。さ。ま。の。う。あ。る。我。ひ。そ。か。よ。さ。の。か。弟。と。い。ハ。あ。る。せ。望。女。が  
 ころ。よ。の。の。せ。よ。か。れ。き。さ。え。ん。の。弟。志。浦。人。を。か。さ。い。ひ。乃。弟。乃  
 か。さ。い。ひ。者。必。難。波。の。浦。又。弟。乃。弟。は。く。は。た。う。く。と。い。う。り。さ。が。あ。る  
 ち。ち。く。ゆ。よ。う。の。と。や。ま。か。一。さ。く。その。か。弟。乃。弟。と。い。ハ。あ。る。の。う。ら  
 ハ。浪。笑。の。里。乃。領。而。は。隠。れ。甚。後。為。方。さ。く。う。弟。乃。弟。と。い。ハ。あ。る。く。  
 山。乃。梳。と。い。ハ。う。ら。一。が。い。と。い。ハ。か。く。あ。る。あ。る。く。ゆ。よ。の。その。あ。弟。乃  
 お。石。敷。今。い。は。ら。の。娘。成。さ。ま。あ。る。け。く。ゆ。よ。つ。た。と。い。ハ。あ。る。う。ら  
 う。う。か。く。る。さ。く。さ。く。い。ひ。さ。く。弟。乃。弟。と。い。ハ。あ。る。の。う。ら  
 氏。弟。乃。弟。と。い。ハ。あ。る。う。ら。て。侍。た。る。弟。乃。弟。と。い。ハ。あ。る。い。ひ。と。い。ハ。あ。る。  
 さ。さ。の。あ。る。人。と。い。ハ。あ。る。が。聖。依。山。依。の。の。を。め。入。く。弟。乃。弟。と。い。ハ。あ。る。















只何と申く恐れ之いれどもなむらうよ走むこれ決断むとあるものも  
 ちかどより思ふく加はれなくはがくおほきみ乃きつびまえんよ心の  
 嵐の吹かあふかへは何れも残れおんおそれも信らばと決れば押猪さるよ  
 てぞいかり二六解ぬといふ。さく刀自もわくき彼と教あつうの形状を  
 とひわく候あーひと娘ハ今ねあり血色のけりどもとこつうつる湯  
 ちと浴せ候ちと梳かー装束いとよくして刀自が押猪よりあをせてる  
 よこれ筆のやどハ二十ありといふよはとさねびく眉のさよありとめく面  
 ちらひえんかぬくそのひく髪乃まぐりしたまもぐと。大まのうちよ  
 と見めける人娘申す中にもか家容良ハおそさびとねがゆ。娘ハか家  
 心ごとくまげひもちて。おのてつうハえあふくもあはれはど父母能

ましんく生を存するよ。よろづつがゆびを申すくうちいあむども。か  
 ちく測るかよハたちあさうくいあむ。押猪をハ何とかのまよと  
 妻乃刀自うちあまひく。心の名を伊賀。ちにるどく。えみーわ  
 ねもまひわく。神実うあせあむといとひもづよつけく天は使  
 めびくゆといふハ。おも微笑する。今ねおんかりとあよきこえ。こ  
 く。ゆらぐおむかとおひきくゆよ。か家甚中申ハ。折体押このむ  
 もまらび。おーかくてきくぞらねゆよつけくハおあだうして。おも  
 一由縁あるか。ともおれまらんか。家ハ折体若とれおり。そる  
 命のかぎり。せまの死神あも。密言まえんとい母も。ちまきかせたうつ。さそあさ  
 ちんきみおろすあく。かぐるがら。年厚とおそひ。び死よ。び川の神もよありく























第八條

和親夫人徳成を勅決けけ之字依八幡大御

文に依つ。依正なりと稱する。臣勢金麻呂と

た。事有の阿麻呂麻呂を以ていづく。依正字依乃正。居候とあり。依正は依

る。依正とあるに依正を以て依正の依正の依正なり。依正の依正の依正

と依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正

と依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正

と依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正

と依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正

と依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正

と依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正

と依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正

と依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正

と依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正

と依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正

と依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正

と依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正

と依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正

依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正

依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正の依正



どりよいりて公。おはよおわうらめど。なまかいつんかごく。かぶ。後唐  
 にか。死衛使とかうあり。たぐ公と時。一。身とまきう。事とわらも。天子  
 と勢を。家。御。昔。ひ。必。氏。と。た。り。ひ。む。と。く。は。神。乃。天。師。の。子。に。て。ま。り  
 之。浦。六。私。あり。ゆ。死。川。と。八。橋。あり。ゆ。死。山。に。決。は。る。より。あ。き。野。と。は。車。あり。ゆ  
 死。ゆ。き。と。あ。く。よ。十。九。百。と。い。ふ。死。終。之。八。月。十。二。日。乃。あ。り。つ。死。守。依。つ。く。は。九  
 月。流。と。つ。ふ。あ。つ。り。流。り。冠。津。あ。く。た。の。徳。来。た。り。つ。た。り。辰。の。と。死。よ。止。る。辰  
 この。の。り。く。の。後。乃。む。ひ。と。大。神。と。よ。若。り。な。り。み。づ。か。う。を。符。符。と。を。な。り。  
 神。宗。と。な。め。く。ふ。り。又。大。神。乃。事。と。運。が。び。一。ひ。は。雲。旗。と。な。り。な。り。け  
 る。よ。その。水。世。を。わ。り。は。風。ぬ。さ。ら。死。ぬ。く。神。信。と。よ。め。死。雲。勢。た。ら。礼。く。  
 世。終。ひ。ひ。と。ら。ひ。死。終。消。され。性。を。害。乃。終。と。あり。と。く。の。真。つ。神。殿  
 乃。ひ。死。く。の。死。終。を。乃。う。ち。よ。光。の。体。を。お。も。い。く。れ。る。終。乃。か。ら。も。死。大。あ。り。ひ。  
 百。角。足。の。ご。く。備。考。に。か。り。拷。繩。の。ご。く。考。を。な。れ。之。の。より。か。な。り。備。考。終  
 考。と。は。わ。り。之。神。考。よ。の。り。く。の。ご。ま。つ。く。は。重。麻。呂。あ。り。ぬ。の。死。奏。せ。り。それ  
 天。つ。日。嗣。ハ。神。妻。取。う。け。つ。が。せ。た。あ。ひ。私。の。の。よ。た。ら。び。い。や。況。や。せ。ら。む。き。も  
 の。と。也。母。乃。後。依。か。一。こ。あ。ん。若。の。あ。よ。く。若。り。き。と。え。や。せ。と。の。ご。ま。つ。く  
 抄。り。の。よ。重。考。考。吹。む。ら。ひ。神。信。と。よ。め。之。月。又。度。あ。り。乃。う。く。よ。照。り。あ。き。の。信。丸  
 神。物。依。う。け。く。賽。一。事。又。十。六。日。乃。あ。り。き。は。夜。ハ。後。と。か。ら。ん。と。い。ひ  
 之。考。考。の。浦。依。と。う。り。あ。ん。の。浦。と。さ。か。何。波。の。浦。後。依。と。う。り。ん。と。さ。る。時  
 浪。風。と。さ。る。る。あ。り。又。考。考。の。た。か。ひ。と。や。り。く。幸。若。く。之。紀。伴。の。浦。あ。り。く  
 只。又。七。日。と。な。り。つ。く。之。紀。伴。の。山。神。越。き。巨。勢。の。ご。く。は。終。の。山。彼。と。あ。り

乃。ひ。死。く。の。死。終。を。乃。う。ち。よ。光。の。体。を。お。も。い。く。れ。る。終。乃。か。ら。も。死。大。あ。り。ひ。  
 百。角。足。の。ご。く。備。考。に。か。り。拷。繩。の。ご。く。考。を。な。れ。之。の。より。か。な。り。備。考。終  
 考。と。は。わ。り。之。神。考。よ。の。り。く。の。ご。ま。つ。く。は。重。麻。呂。あ。り。ぬ。の。死。奏。せ。り。それ  
 天。つ。日。嗣。ハ。神。妻。取。う。け。つ。が。せ。た。あ。ひ。私。の。の。よ。た。ら。び。い。や。況。や。せ。ら。む。き。も  
 の。と。也。母。乃。後。依。か。一。こ。あ。ん。若。の。あ。よ。く。若。り。き。と。え。や。せ。と。の。ご。ま。つ。く  
 抄。り。の。よ。重。考。考。吹。む。ら。ひ。神。信。と。よ。め。之。月。又。度。あ。り。乃。う。く。よ。照。り。あ。き。の。信。丸  
 神。物。依。う。け。く。賽。一。事。又。十。六。日。乃。あ。り。き。は。夜。ハ。後。と。か。ら。ん。と。い。ひ  
 之。考。考。の。浦。依。と。う。り。あ。ん。の。浦。と。さ。か。何。波。の。浦。後。依。と。う。り。ん。と。さ。る。時  
 浪。風。と。さ。る。る。あ。り。又。考。考。の。た。か。ひ。と。や。り。く。幸。若。く。之。紀。伴。の。浦。あ。り。く  
 只。又。七。日。と。な。り。つ。く。之。紀。伴。の。山。神。越。き。巨。勢。の。ご。く。は。終。の。山。彼。と。あ。り





天  
田  
十  
一



天  
田  
十  
一



けさせくもな。後麻呂我家人と振てひそかやなるべしと云巨指金麻呂  
 かをかりくむれまど。我妻よりひく後らふてむねあり。海にたてまづ  
 宿次をひきかたぐーとのふ。私用あるまゝ依はひひく。その地佐とが  
 ことひりしむる。巨指金麻呂が位取決とひあそぬれ。門のまゝおごりえ  
 地佐く。彼よかひくひそかやかとやひは。後麻呂うちあつてひそか  
 小使裏の門垣ありあそ。その衆人一人を侍ひ。金麻呂が宿次とひつ。まづその  
 門方とこれ。幾とせかき掃かざりけん。所をももみえ。秋の季さく生ひて  
 まづま。びりろくにはるく。一と。後麻呂をみだれる。月の氣のこそぞ  
 侍ひあるあり。衆人先はまき。標めひつる地。涉符正かたのけ。衆人の意  
 うちをらひむど。門ハひく。早もなく。後乃。後れ。う。と。諸名。いれ

小使裏の声をく。後や。後入。おあえ。後ら。び。なる。衆。よ。小使。を。懸。た。も。なり。  
 心やう。メ。ハ。入り。こ。も。こ。ま。あ。り。と。い。ふ。よ。こ。は。る。あ。や。し。の。あ。り。の。あ。び。字。依。の。大。作。使。  
 こ。ま。あ。り。の。あ。や。し。の。あ。り。の。あ。び。字。依。の。大。作。使。か。く。ま。こ。え。な。る。ハ。お。衆。の。  
 麻呂ありとやせば。を。後。麻。呂。の。こ。の。お。ひ。か。け。ね。我。を。父。親。に。ま。い。と。お。衆。  
 しくかんとし。い。は。い。と。く。後。ら。あ。り。の。あ。び。字。依。の。大。作。使。も。あ。ら。び。人。と。あ。ら。  
 び。后。ら。の。大。作。使。も。あ。ら。び。後。麻。呂。の。あ。ら。び。の。あ。ら。び。の。あ。ら。び。の。あ。ら。び。の。あ。ら。び。  
 衆と物。後。ひ。ま。ど。う。ん。は。何。も。う。ら。の。あ。ら。び。の。あ。ら。び。の。あ。ら。び。の。あ。ら。び。の。あ。ら。び。  
 ら。地。佐。ま。く。は。い。し。我。人。か。り。い。ま。ん。と。く。一。ぬ。ま。く。卯。麻。呂。ま。う。ち。ら。び。り。く。  
 外。具。の。う。ち。を。む。わ。ひ。ど。を。う。り。海。の。べ。と。え。あ。る。よ。門。を。こ。り。み。つ。れ。た。  
 る。ハ。中。こ。に。う。ら。ま。あ。り。たり。松。の。あ。ら。ハ。い。と。さ。く。あ。り。我。乃。生。ひ。る。ハ。お。衆。と。あ。く































ざうけり。年表大井戸とあづき。おきく。押さぬき。島津の焼たのめ。かうく。  
 島津島があつる。形状をみれば。をきぬ。さうち。かけく。やうけ。は。懸懸せり。そ  
 うらう。あつて。牛表。あつ。彼が。首。ゆ。う。べ。そ。は。首。子。を。取。り。く。死。骸。状  
 げ。中。に。埋。り。お。か。ご。も。は。彼。塞。う。り。と。人。は。み。せ。く。風。ぬ。の。ま。は。ま。に。迹。を。た  
 して。い。ま。も。あ。つ。く。首。は。ひ。を。か。よ。こ。と。射。る。あ。つ。と。乃。後。へ。を。ま。り。ん。と。傷。り  
 へ。お。づ。ま。さ。る。島。津。島。は。只。斬。も。つ。ら。び。へ。く。押。危。る。牛。表。を。力。を。何  
 げ。く。う。つ。首。は。形。を。わ。れ。く。胸。作。ら。う。と。あ。代。強。く。さ。へ。弁。を。志。か。を。お。え。た。ら。に。  
 血。ハ。蛇。の。ど。く。を。交。れ。お。て。え。る。ぶ。ら。う。な。面。が。う。わ。れ。ば。あ。づ。首。子。と。切。破。り。衣  
 ぶ。と。押。ま。さ。く。血。と。林。と。さ。め。押。も。く。懸。と。踏。あ。して。た。と。さ。か。け。る。と  
 お。か。る。あ。づ。い。ぬ。れ。う。を。ま。お。と。傷。ひ。首。と。力。の。ま。さ。こ。と。切。破。傷。う。る。う。ら。に

か。う。く。表。の。あ。つ。け。ゆ。め。風。ぬ。を。お。止。く。め。あ。む。む。に。牛。表。大。井。戸。を。や。く  
 懸。く。守。勢。も。様。麻。呂。河。奥。よ。か。の。せ。よ。と。の。あ。よ。守。勢。も。の。た。く。み。る  
 に。島。津。島。は。あ。づ。い。ぬ。れ。さ。ら。き。く。か。と。い。は。牛。表。大。井。戸。と。り。よ。あ。つ。れ。さ  
 る。款。く。ま。の。代。彼。あ。つ。さ。う。さ。う。が。い。く。一。塞。め。人。と。あ。づ。む。代。之。迹。た。る  
 ち。ん。あ。づ。く。ハ。守。勢。も。む。ゆ。わ。を。せ。く。あ。つ。た。る。ゆ。え。我。く。二。人。公。真。よ。款。よ  
 せ。り。く。い。び。ぬ。は。号。に。き。こ。え。な。ら。ん。汝。ハ。我。疑。ひ。と。ち。る。け。ん。と。た。も。を。ぞ。  
 い。ぬ。れ。際。より。も。様。麻。呂。と。さ。が。い。お。せ。と。い。ひ。く。二。人。ハ。さ。う。ち。の。う。て。あ。つ  
 ち。守。勢。も。お。か。ひ。う。さ。が。ひ。く。又。さ。ゆ。う。く。島。津。島。が。取。ら。る。ゆ。え。と。さ。れ。と  
 も。だ。め。も。あ。つ。れ。が。及。び。さ。ら。ぬ。實。ん。う。り。お。か。し。く。な。と。さ。ら。く  
 ち。に。さ。ら。い。ぬ。れ。ぬ。さ。く。年。表。大。井。戸。の。二。人。ハ。島。津。島。が。首。ゆ。抱



ちらり。な後に中入れば例をあらんと。人波避けく明敷のちりさま  
 さまのあゝとてねど祿衣裳の袖より金多に丸むくわさふ。年定は奔  
 だいて蒸ひぬ初は流るる流るれば。藤麻呂が首ながくわらうとてひら  
 ぬ。藤麻呂の志こたれど。秋くかむりよゆ流くれば。藤麻呂のけりあうん。  
 のぞみんとあよよと流く死ねどもこたると首ハる。きハぬあうんこれ  
 まぐあへくあうりつるよ。大井戸のよあうひとていハ大井戸のりよ。母  
 一人のやまればせんき。藤麻呂が首ハ射るるるびや。さこそ母が抱  
 よ色みく抱くまこれ。秋ハゆもゆれどとていハ。被色め原糸を打く  
 しとみるよ。人の面画る紙乃らうち懸びくむらに。きハぬのてとて  
 こころのなが流大よらう。母ハ秋とあまひとていハ。藤麻呂とたてけりか。原

紙給流けりかきまき。藤麻呂のけりあうひとていハ。きハぬのてとて  
 二人と眼あや伐り殺し。人あれば藤麻呂の物次郎もせとて。親にうく真流  
 くひりぬ。きハぬのりゆひよとていハ。きハぬのりゆひよとていハ。きハぬのり  
 どもハまぐのひと波乃乃方にうけく。寒男遠くハくまどとて。大波の山乃  
 隈をかかた。巨勢流流うてりよ。日七暮ぬ。徳松打あしを程々に。人け  
 て流る流すけり。巨勢金多を寒を度ひて家内ゆらう。いふ流る男子あわわといふに。  
 守勢もさくあそられ。何よあれ金多がかられがを囲みさく。金多あまゆ。縛  
 るいひさだて守勢解散三十人あり。仕丁より小徳松よりさせて。巨勢  
 金多長がのりよを囲み。金多寒流度ひてかへりといふ。其寒を衆人あり。  
 今も今えらうハうんさく。空を踏さ穴門をうちをわけてまゝに。人氣







ありはたしむるにあらば。かりく人よまざれてハ傷れぬにあらむ。は疾のうち  
 ふもとりあかりひて。巨勢山に遊戯く心なまきくゆべり。又たのほりぐれば。  
 巨勢山の彼方に日次はまに給侍あひく。これもかまきくさむらふりの  
 二人まぐもどり。志いと嬉しくけし。はうち一人を侍ひ。又ひとりせハ後金  
 石よそへく。世臣の心結息をかせ。金体もたくりませく。たよつうり。世家の厚  
 さま。毒子のほり。どうか。せもづらん。いふやとそいどか。きく。金石同屋とい  
 きく。御弱は旅人乃るか。んと平なりといをせ。肥乃御後。ひかせ。後麻呂  
 と申比のせを父と二人を右よなり。金石ハ御後。やうの世を。後が。死具  
 どり。は。若の情に。か。く。後。く。ち。秀。ひ。く。わ。と。に。つ。死。く。お。ら。く。あ。は。せ。ら。う  
 をかり。老。林。の。月。うち。ま。ぐ。に。星。ハ。ま。き。く。と。思。く。く。山。の。隠。と。れ。が。見。い。

せきく。あかりて。勢いとまきく。ゆく。世。次。若。妻。と。け。ゆ。く。た。あり。若。あり。に  
 そひく。ゆ。く。た。あり。ま。じ。う。後。を。右。た。と。り。く。ま。ま。と。ふ。る。あり。若。は。尾。乃。と  
 熱ゆ。た。巨。勢。の。山。ま。め。ぐ。り。の。死。く。敵。の。十。を。かり。後。並。つ。る。世。の。ま。づ。ら。金。丸  
 後。麻。呂。に。行。く。く。い。く。む。か。大。家。乃。以。太。上。天。皇。持。統。紀。傳。の。必。よ。い。ど。あ。り  
 の。死。所。依。せ。坂。門。人。足。が  
 巨。勢。山。乃。列。て。後。つ。く。は。女。つ。あ。め。の。巨。勢。乃。ま。事。と  
 と。あ。り。け。る。の。り。は。此。ま。バ。後。系。と。よ。び。つ。後。は。乃。若。と。い。は。せ。る。後。方。に。う  
 め。び。く。も。あ。ま。わ。く。あ。け。の。敵。の。ひ。ぢ。か。く。て。こ。ら。ま。づ。ま。お。ら。ら。後。陰。の。あ。ま。び  
 つ。あ。ま。つ。る。男。あり。そ。は。ま。又。に。や。ま。く。う。せ。事。く。せ。く。は。の。被。り。あ。ま。か。ん。と。く。  
 る。は。は。その。川。よ。つ。お。ぎ。後。麻。呂。と。老。刀。自。と。か。死。ゆ。う。を。後。は。ま。ひ。ち。う。て。あ。ご









春  
三  
九















第十一條

守取が案罪とゆふされ之流麻呂金麻呂があとと

返ふ流麻呂妻子金石獵野に逢ひく紀伊の玉子乃

流麻呂汝とてまゝ之返去より罪いとまゝなりその妻と壞され妻子をハ

返放されぬ又刑款省よハ彼獄屋に繋切死し守取どもを弘の場にいき

かきせく刑責とて曰汝も給る首乃か流麻呂とて弘の友人を首なり

た。たぐひにお罪人を。かろく金麻呂に賄賂せられ流麻呂をせしむるが

り成りゆにやせ。さけハ獄屋の棟にさかさまにたつねぎ瓜をさき置けぬき。

刑罰ハ列木の宮乃所尉また之ん刑罰天をハ長谷のと懲せば守取ホ色ハ兼あり

もまぐし。身ハ飛立ちをうりにあひたぐり。園のんてつまらうしてまぐくえいた























この縁ありくをどうし

第十二條

山城清麻呂の妻子をぬせり去家<sup>あまのうの</sup>の書大を

金石を盗み<sup>盗</sup>其に記<sup>し</sup>存<sup>せ</sup>る人<sup>を</sup>好<sup>む</sup>信<sup>じ</sup>山<sup>に</sup>入<sup>り</sup>て

君をいど地をあらしく<sup>あ</sup>が<sup>り</sup>て<sup>は</sup>う<sup>ち</sup>の<sup>お</sup>か<sup>し</sup>た<sup>ま</sup>あ<sup>ま</sup>よ<sup>し</sup>金<sup>の</sup>糶<sup>守</sup>を<sup>い</sup>ま<sup>を</sup>り<sup>し</sup>神

あれどもが<sup>か</sup>家<sup>の</sup>世<sup>の</sup>存<sup>の</sup>ま<sup>を</sup>り<sup>を</sup>心<sup>を</sup>地<sup>を</sup>れ<sup>を</sup>。後<sup>に</sup>も<sup>も</sup>え<sup>ん</sup>れ<sup>ど</sup>悔<sup>方</sup>み<sup>も</sup>て<sup>り</sup>

が<sup>て</sup>。横<sup>を</sup>ま<sup>に</sup>も<sup>は</sup>れ<sup>が</sup>て<sup>て</sup>。あ<sup>ま</sup>り<sup>た</sup>つ<sup>め</sup>が<sup>男</sup>お<sup>杖</sup>と<sup>思</sup>が<sup>神</sup>よ<sup>つ</sup>た<sup>ら</sup>

し。神<sup>ハ</sup>ひろく<sup>ら</sup>ぬ<sup>も</sup>。肩<sup>ハ</sup>首<sup>あり</sup>き<sup>く</sup>さ<sup>り</sup>を<sup>り</sup>。あ<sup>り</sup>ま<sup>が</sup>り<sup>て</sup>た<sup>と</sup>さ<sup>き</sup>り<sup>の</sup>

や<sup>あ</sup>び<sup>こ</sup>そ<sup>ろ</sup>く<sup>吼</sup>と<sup>ろ</sup>死<sup>く</sup>い<sup>と</sup>く。お<sup>ま</sup>き<sup>よ</sup>は<sup>母</sup>お<sup>か</sup>家<sup>の</sup>山<sup>に</sup>た<sup>と</sup>い<sup>と</sup>く<sup>死</sup>よ<sup>。</sup>

女<sup>を</sup>ぬ<sup>く</sup>い<sup>づ</sup>て<sup>り</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>。さ<sup>こ</sup>そ<sup>ろ</sup>の<sup>う</sup>か<sup>り</sup>め<sup>の</sup>う<sup>ら</sup>め<sup>と</sup>め<sup>と</sup>め<sup>と</sup>め<sup>と</sup>り

て<sup>は</sup>ん<sup>と</sup>い<sup>ふ</sup>。金<sup>石</sup>糶<sup>守</sup>を<sup>ぬ</sup>く<sup>て</sup>り<sup>。</sup>弱<sup>あり</sup>法<sup>よ</sup>と<sup>対</sup>ん<sup>と</sup>ん<sup>よ</sup>ま<sup>を</sup>り<sup>。</sup>さ<sup>は</sup>い<sup>と</sup>

か<sup>け</sup>け<sup>き</sup>。我<sup>ハ</sup>秋<sup>の</sup>い<sup>と</sup>が<sup>神</sup>と<sup>ぞ</sup>う<sup>い</sup>て<sup>け</sup>に<sup>。</sup>匿<sup>家</sup>よ<sup>ま</sup>い<sup>ん</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>は</sup>。我<sup>ハ</sup>

て<sup>は</sup>ん<sup>の</sup>坂<sup>の</sup>道<sup>に</sup>あ<sup>る</sup>べ<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>が<sup>。</sup>ま<sup>や</sup>ま<sup>と</sup>ち<sup>か</sup>し<sup>。</sup>そ<sup>の</sup>所<sup>よ</sup>い<sup>ま</sup>さ<sup>く</sup>も<sup>あ</sup>び<sup>。</sup>さ

の<sup>ま</sup>ふ<sup>ハ</sup>何<sup>の</sup>人<sup>ぞ</sup>と<sup>思</sup>ふ<sup>。</sup>さ<sup>こ</sup>そ<sup>ろ</sup>の<sup>あ</sup>秋<sup>の</sup>女<sup>女</sup>お<sup>ま</sup>ま<sup>と</sup>り<sup>。</sup>如<sup>き</sup>乃<sup>浦</sup>の<sup>神</sup>

よ<sup>つ</sup>た<sup>あ</sup>ら<sup>。</sup>我<sup>と</sup>神<sup>を</sup>ぬ<sup>く</sup>。家<sup>業</sup>あり<sup>。</sup>ま<sup>を</sup>と<sup>神</sup>へ<sup>私</sup>も<sup>せ</sup>ん<sup>。</sup>こ<sup>と</sup>り<sup>。</sup>

お<sup>ぬ</sup>く<sup>。</sup>母<sup>お</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>と<sup>も</sup>る<sup>か</sup>。又<sup>我</sup>く<sup>が</sup>君<sup>と</sup>ば<sup>ん</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>や</sup>。そ<sup>も</sup>秋<sup>ハ</sup>む<sup>し</sup>糶<sup>守</sup>を<sup>ぬ</sup>

に<sup>魂</sup>き<sup>せ</sup>。大<sup>能</sup>の<sup>神</sup>乃<sup>子</sup>孫<sup>あり</sup>。能<sup>守</sup>山<sup>乃</sup>孫<sup>あり</sup>。又<sup>の</sup>名<sup>ハ</sup>お<sup>か</sup>家<sup>の</sup>

神<sup>。</sup>この<sup>男</sup>ハ<sup>八咫</sup>鳥<sup>の</sup>神<sup>乃</sup>子<sup>孫</sup>あり<sup>。</sup>ハ<sup>鬼</sup>山<sup>乃</sup>子<sup>鳥</sup>又<sup>の</sup>名<sup>を</sup>能<sup>守</sup>と<sup>も</sup>い<sup>ふ</sup>。

さ<sup>は</sup>ら<sup>く</sup>神<sup>く</sup>あ<sup>ら</sup>。陰<sup>ハ</sup>い<sup>ま</sup>の<sup>ひ</sup>の<sup>あ</sup>り<sup>。</sup>お<sup>ま</sup>ま<sup>と</sup>ま<sup>と</sup>の<sup>見</sup>お<sup>か</sup>家<sup>に</sup>真<sup>金</sup>を<sup>ぬ</sup>

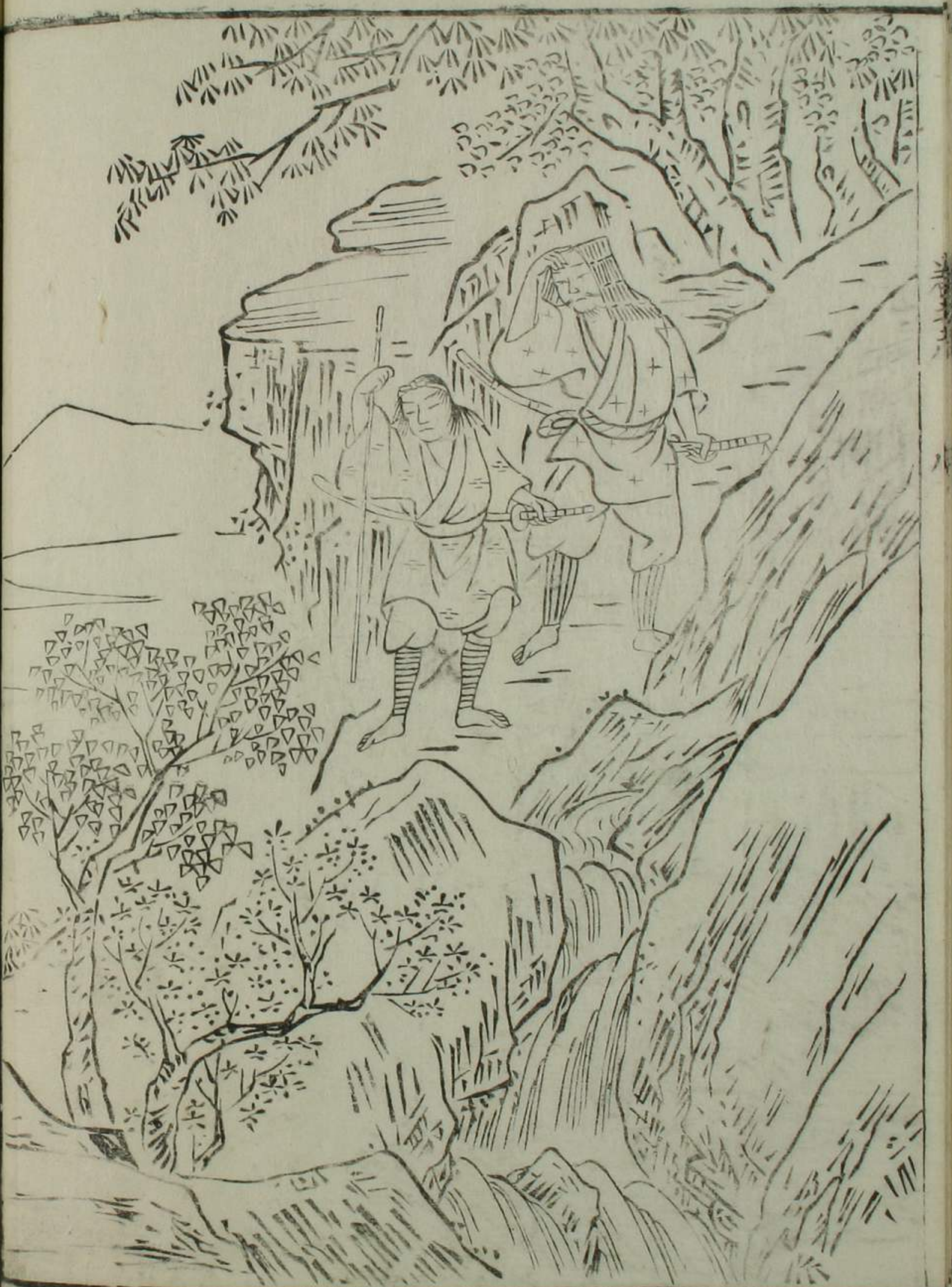
神<sup>よ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>り</sup>。さ<sup>こ</sup>そ<sup>ろ</sup>の<sup>命</sup>を<sup>ハ</sup>神<sup>あり</sup>。追<sup>お</sup>さ<sup>む</sup>。け<sup>は</sup>能<sup>守</sup>乃<sup>杖</sup>と<sup>え</sup>よ<sup>。</sup>ま<sup>ま</sup>

卷之八





























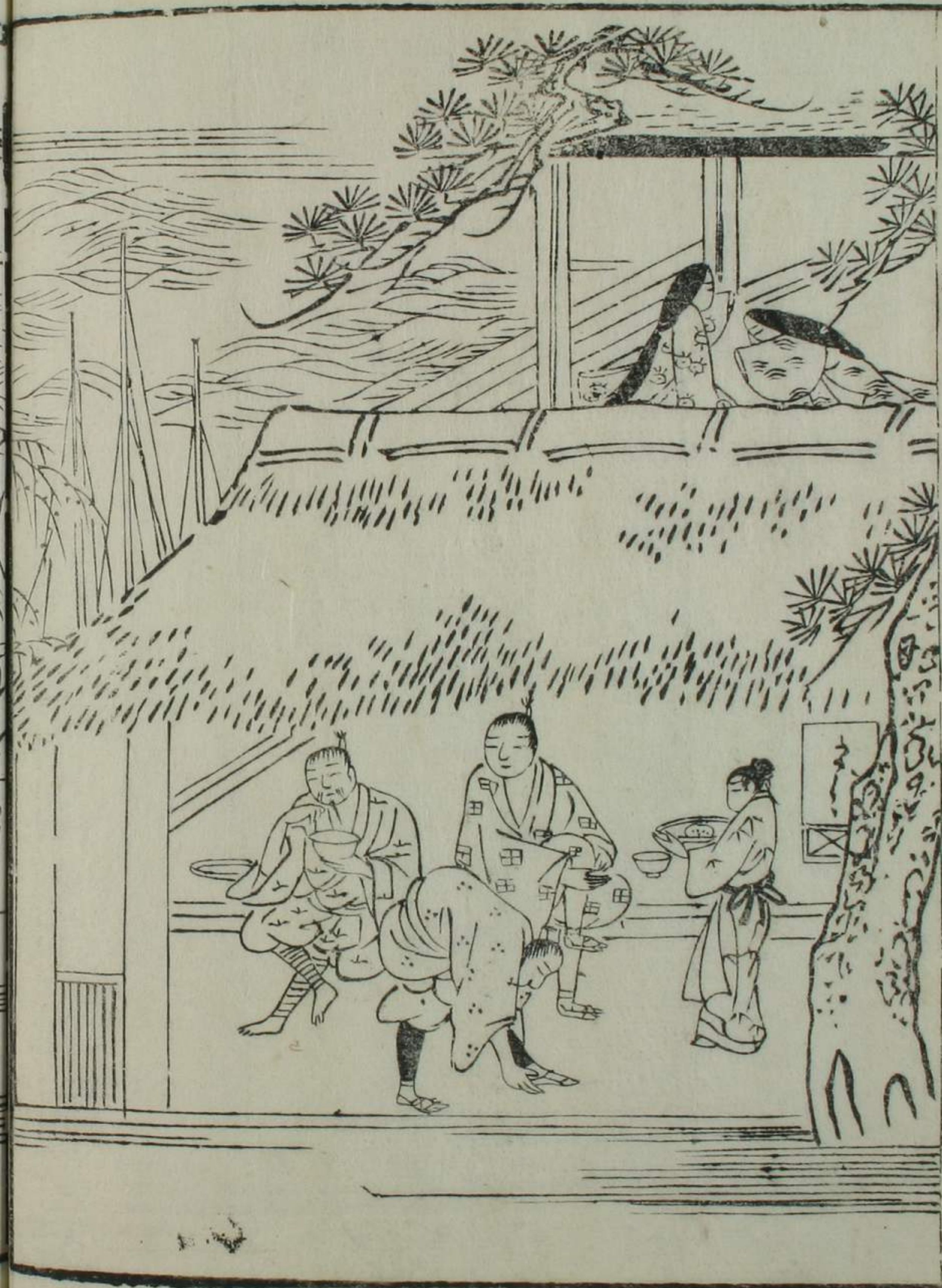














いたまはらばらにけく先發のゆひ夜驚がどよめかたつたあかぢとて  
 喜びあつたためゆひとてわたりぬえん極にゆえなまぐと昔ひく被処より  
 足身やゆえそくまへつけとて此その入来たあひつるゆよくひまうこゆぢふ  
 だあひーがそこよ八かへりうひとたあひ。先刻けひと間にさあび。非を重  
 とひとめたあふとゆひにさばぬればいやく神七落居まのゆく今八けなまぐ  
 あみえなるとも。若神かくそくかをせば。ゆとり形まきこえたあつらんと。かくお  
 くのうへゆきまこえなるあり。君をまはせゆらさせたあつらんと。まきこえまぐ  
 魁まへ八わづらう。けりひひぬゆぞげう八師のけちうまひかえ。身はく  
 まわれとのたまもまら。若神もひさうく絶たうとせぬりかかゆう八はつ  
 女の忠誠せばけうたまも外ゆめぬ。君をまはせゆらさせたあつらんと。まきこえまぐ  
 八のゆきまこえのまきまこえと。世興さ物。温泉にけりうけなまぐ。ゆひのあつら  
 内だたのみまのゆきまこえと。ありくまゆり。ゆきまこえ乃長夜まぐに  
 三人の者もゆきまこえ。先令おなまきまらなり。世興のゆひかたうに。ゆき  
 かたうんまぐかたうゆひ八罪人ありまら。ゆきまこえ。先令おなまきまらなり。世興  
 まきこえ乃長夜まぐ。ゆきまこえ乃長夜まぐ。ゆきまこえ乃長夜まぐ。ゆきまこえ乃長夜まぐ  
 世興のゆひかたうゆひ八罪人ありまら。ゆきまこえ。先令おなまきまらなり。世興  
 の長夜まぐ。ゆきまこえ乃長夜まぐ。ゆきまこえ乃長夜まぐ。ゆきまこえ乃長夜まぐ  
 きりひかゝ初発のたらあちまら。見たあちまら。ゆきまこえ乃長夜まぐ。ゆきまこえ乃長夜まぐ  
 ゆきまこえ乃長夜まぐ。ゆきまこえ乃長夜まぐ。ゆきまこえ乃長夜まぐ。ゆきまこえ乃長夜まぐ  
 ぎりゆめり。ゆきまこえ乃長夜まぐ。ゆきまこえ乃長夜まぐ。ゆきまこえ乃長夜まぐ。ゆきまこえ乃長夜まぐ

八のゆきまこえのまきまこえと。世興さ物。温泉にけりうけなまぐ。ゆひのあつら  
 内だたのみまのゆきまこえと。ありくまゆり。ゆきまこえ乃長夜まぐに  
 三人の者もゆきまこえ。先令おなまきまらなり。世興のゆひかたうに。ゆき  
 かたうんまぐかたうゆひ八罪人ありまら。ゆきまこえ。先令おなまきまらなり。世興  
 まきこえ乃長夜まぐ。ゆきまこえ乃長夜まぐ。ゆきまこえ乃長夜まぐ。ゆきまこえ乃長夜まぐ  
 世興のゆひかたうゆひ八罪人ありまら。ゆきまこえ。先令おなまきまらなり。世興  
 の長夜まぐ。ゆきまこえ乃長夜まぐ。ゆきまこえ乃長夜まぐ。ゆきまこえ乃長夜まぐ  
 きりひかゝ初発のたらあちまら。見たあちまら。ゆきまこえ乃長夜まぐ。ゆきまこえ乃長夜まぐ  
 ゆきまこえ乃長夜まぐ。ゆきまこえ乃長夜まぐ。ゆきまこえ乃長夜まぐ。ゆきまこえ乃長夜まぐ  
 ぎりゆめり。ゆきまこえ乃長夜まぐ。ゆきまこえ乃長夜まぐ。ゆきまこえ乃長夜まぐ。ゆきまこえ乃長夜まぐ

















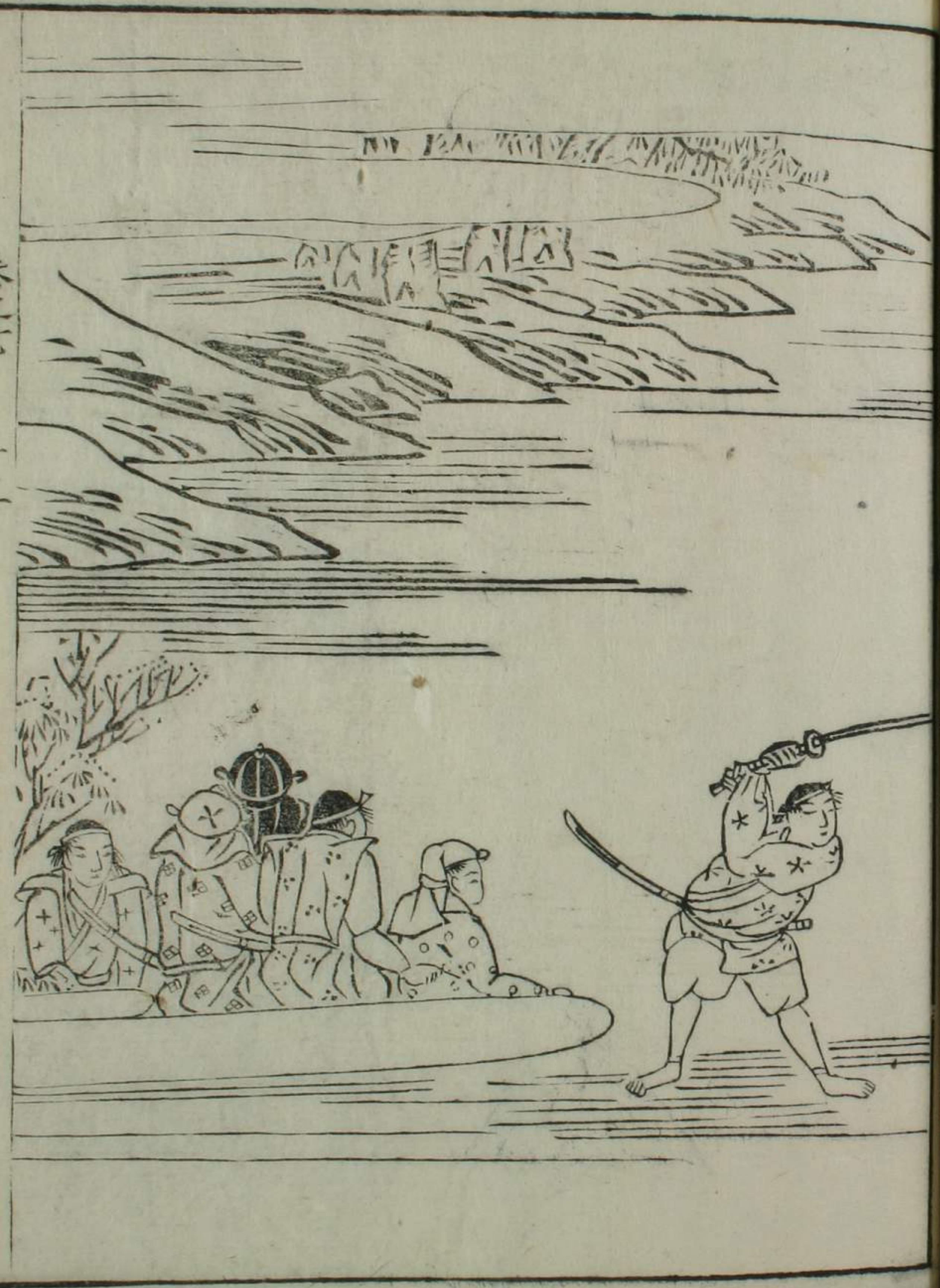






















かく我らも人をもまじり不意に命をいせりて至るは死の境なりかたは

叙の里に極楽（生三か）なる所ありを以て死す千人にわのむもがらふなりわ我ら

は命を極楽（うさへのかつ）にかりそめよあべの命なり。極楽は命を押しつが家入極楽（コロのまがら）なる

るも。是は後。叙極楽なるは命をいせりては極楽の命なり

い命とわはつらむをわがわの軍兵隊の命なりわ我らもわがわの命なり

わ我らもわがわの命なりわ我らもわがわの命なりわ我らもわがわの命なり

わ我らもわがわの命なりわ我らもわがわの命なりわ我らもわがわの命なり

わ我らもわがわの命なりわ我らもわがわの命なりわ我らもわがわの命なり

わ我らもわがわの命なりわ我らもわがわの命なりわ我らもわがわの命なり

わ我らもわがわの命なりわ我らもわがわの命なりわ我らもわがわの命なり

わ我らもわがわの命なりわ我らもわがわの命なりわ我らもわがわの命なり

わ我らもわがわの命なりわ我らもわがわの命なりわ我らもわがわの命なり

わ我らもわがわの命なりわ我らもわがわの命なりわ我らもわがわの命なり

わ我らもわがわの命なりわ我らもわがわの命なりわ我らもわがわの命なり



第十四條

二人の大將軍軍兵と使とて白土の處にありし。

毎に春院は作兵糧のの決條。

神宗月十日をかりありし。山のやとをさしつるまはありめづりのがれ林乃  
木の葉のころぬく厚さ。後の八十隈はつておころ。思のふ十路はをさく  
愛之。秋嵐さむく吹おちる。楮ハ楮さるぞとび。松ハたれ之猪いそしゆぬ。  
く岩根を踏こつておぼけ。大將楮さる麻呂さるよりおちたまふに。和帝教  
まおカもおぼくむりこ。さ坂よ是つ死るがみ。楮少は停をいこひこ。は方  
さるかよえおちせば軍兵又百人あまりに又さる所をへくれが。是大空に  
まひのづる統の雲の海をむらうごおくおと。たまぬぐりあまつらる。



























第十七條

守大侍宿禰家持カキ釋法白山に歸依。並に和宗於去

ち刀家持の彼カキより來依

春虎は師の教よまかせく。信受の義よ應承ゆひ。以彼よかりて勢ひめがひ。  
あやし人のありてあがり多。ゆゑも何れウケ執ケつるむねも遠下と知り。俄も使  
とまきりゆひはトモ縁トモと住宿禰ゆき。大同春三守八十島ハシ崇トモ米メ決ケツとのて執トモ  
よ来キつるに守大侍宿禰家持カキお居イにむかひて告ツぐ曰クふふなる志シくくのむね  
あり。白山の春虎をこれと子の出イ行コウ乃ノ師シあり。がカ東トウ作サク法ホフ退タイく白山よこも  
るといども。天下の民のためハ出イ行コウはまゐるむねあれど。そま死シ神カミと天下の  
茶チ生セイハハ切キりヒがカとトきキとキをソれノのノ師シ我ガにニ執トモつるよしとト不フ志シス

ユカリナク

卷之七

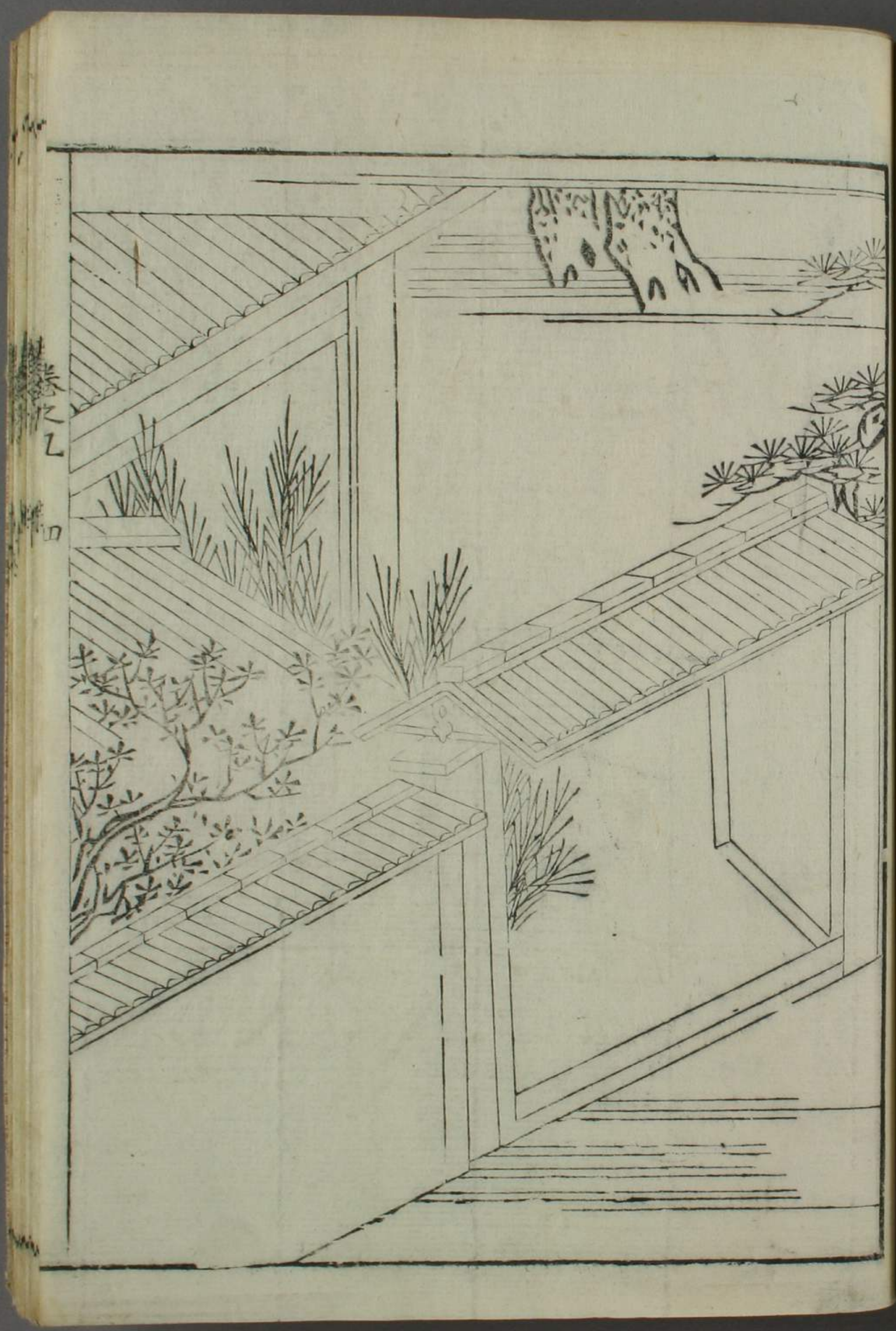










































































せんともたのめあそく。吹舟り家もあつたよふとつるに。徳文一通あつたよ  
 ておいたまふれ又そのよに。お徳文をいんといふ。お徳文あつたよとあつた  
 るよいよと。我ハ文をよび。唯今とて書きたるめんのハ。えせと  
 りくは。お徳文のハ。男よかたあつたよに。なよたのよてかめあつたよ  
 先地ちあつたよ。お徳文の先を。お徳文したまふといふ。お徳文といふ  
 て。お徳文あつたよ。お徳文のよ。お徳文といふ。お徳文といふ。お徳文といふ  
 のよ。お徳文あつたよ。お徳文のよ。お徳文といふ。お徳文といふ。お徳文といふ  
 るよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ  
 眞波のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ  
 とのよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ

ちたつた。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ  
 一ハ徳文とあつたよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ  
 たまふといふ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ  
 ころころ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ  
 ころころ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ  
 秋もろろ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ  
 船をたあつたよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ  
 神のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ  
 や。今とあつたよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ。お徳文のよ



















るねどおぼえづ死が。かみせの中よ人のひびくも。さうさーとわもせ修成むを  
ひびくよ。彼たのんとりくしていつよせん。又らのひひきまこ。此軍はくんと死。  
ろたうていつよせんか。おぼえまことかぬく。我婦と中あをせさむらふ。やうれ  
修成の天は乃修よ。おぼえをる者のもくた。う。修成のくたをかくせく。  
は修あぐ。修あぐ。おぼえまごん。とわかぬ。君かくていかで。かくたを  
まさん。今秋より十日をかり。かく。おぼえまごん。とわかぬ。君かくていかで。かくたを  
とわかぬ。おぼえまごん。とわかぬ。君かくていかで。かくたを  
あのをせまごん。とわかぬ。君かくていかで。かくたを  
まゆらぬ。このまゆらぬ。おぼえまごん。とわかぬ。君かくていかで。かくたを  
ておぼえまごん。とわかぬ。君かくていかで。かくたを

あぐ。いつよせんか。おぼえまことかぬく。我婦と中あをせさむらふ。やうれ  
ひびくよ。彼たのんとりくしていつよせん。又らのひひきまこ。此軍はくんと死。  
ろたうていつよせんか。おぼえまごん。とわかぬ。君かくていかで。かくたを  
まさん。今秋より十日をかり。かく。おぼえまごん。とわかぬ。君かくていかで。かくたを  
とわかぬ。おぼえまごん。とわかぬ。君かくていかで。かくたを  
あのをせまごん。とわかぬ。君かくていかで。かくたを  
まゆらぬ。このまゆらぬ。おぼえまごん。とわかぬ。君かくていかで。かくたを  
ておぼえまごん。とわかぬ。君かくていかで。かくたを











けり。世に生れし世に死すまの人もあらず。いふかあらん死本とうち  
 ちかたむと。ほくしひちまらふまの世のまじくやえくたひは後世  
 扱ひく初まらふ。その中いかにさうぞ。ちかたむものすまをせてゆま。  
 そはむびとせし。女どものつらまごり決たりし。又女神がのさしたる  
 けりまの神考あに。そのうち金むとひひくさむらふ。始末乃さま  
 もいかにさうに。ちかたむれりまのむら。むむまをさく。此の世にま  
 びるまの細まきとえらげたまふ。あれもまきとひく。おくまをさうたまふ。  
 まの世にまきとえらげたまふ。あれもまきとひく。おくまをさうたまふ。  
 んとひくまらぬ。そのうちまらぬ。まの世にまらぬ。まの世にまらぬ。  
 て。いかにまらぬ。まの世にまらぬ。まの世にまらぬ。まの世にまらぬ。

おうがれく。むままうく。むままうく。むままうく。むままうく。むままうく。  
 今世にまらぬ。まの世にまらぬ。まの世にまらぬ。まの世にまらぬ。まの世にまらぬ。  
 秋まのむらひひるどく。まらぬ。まの世にまらぬ。まの世にまらぬ。まの世にまらぬ。  
 しく物たのりく。むままうく。むままうく。むままうく。むままうく。むままうく。  
 んとまらぬ。まの世にまらぬ。まの世にまらぬ。まの世にまらぬ。まの世にまらぬ。  
 世のこつむらひひるどく。まらぬ。まの世にまらぬ。まの世にまらぬ。まの世にまらぬ。  
 ちかたむと。むままうく。むままうく。むままうく。むままうく。むままうく。  
 門きまらぬ。まの世にまらぬ。まの世にまらぬ。まの世にまらぬ。まの世にまらぬ。  
 ざんば。まの世にまらぬ。まの世にまらぬ。まの世にまらぬ。まの世にまらぬ。まの世にまらぬ。  
 ちかたむと。まの世にまらぬ。まの世にまらぬ。まの世にまらぬ。まの世にまらぬ。まの世にまらぬ。











まぢの  
陸奥津さくくわりのなまへ。まぢのく乃子よハ我友ニ田舎藤原を  
又えが越美の園よハまぢのち我友を美友押猪まわりくゆよ。あはちひて  
はく入込軒くまこえよ。あはかこ

二月五日

高指乃牛力

内舎人奉志す勝虎を

同

勝行を

とわめたり。女神との文をわしうた。さそもあくまけたるね。とたの  
り此人よりひつるかま。いそまのがせをゆん。とまづ姉妹とよびあく。あつぐ  
さう。今二冊むらうのるよまきまのむせまゆん。いぶご旅のゆあそひさうまよ  
ももかつこうひあせよ。我もものせん。かひく。強<sup>ク</sup>地<sup>ク</sup>ける<sup>ク</sup>ま<sup>ク</sup>

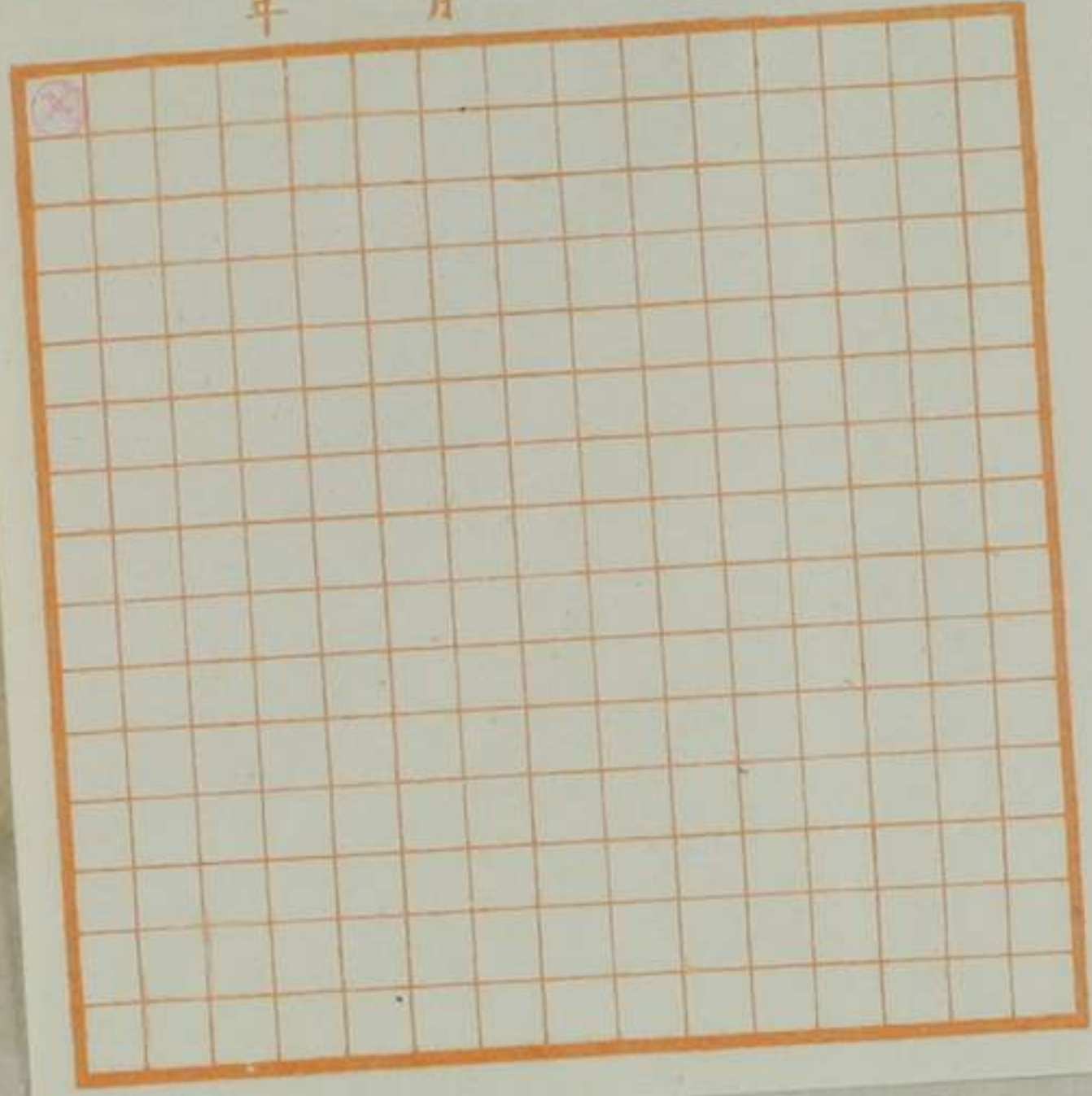
のうちあり。ちカニ振とえあく。とたをさみ。だを死さうね。け<sup>け</sup>神<sup>神</sup>原<sup>原</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>い  
オの猪<sup>猪</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>び<sup>び</sup>わ<sup>わ</sup>く。彼<sup>彼</sup>母<sup>母</sup>が<sup>が</sup>た<sup>た</sup>を<sup>を</sup>わ<sup>わ</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>れ<sup>れ</sup>る<sup>る</sup>三<sup>三</sup>百<sup>百</sup>枚<sup>枚</sup>の<sup>の</sup>金<sup>金</sup>を<sup>を</sup>我<sup>我</sup>は<sup>は</sup>は<sup>は</sup>れ  
やころよままあ。君<sup>君</sup>ぶ<sup>ぶ</sup>ち<sup>ち</sup>又<sup>又</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>級<sup>級</sup>の<sup>の</sup>筆<sup>筆</sup>を<sup>を</sup>さ<sup>さ</sup>う<sup>う</sup>ち<sup>ち</sup>ま<sup>ま</sup>せ<sup>せ</sup>ま<sup>ま</sup>せ。我<sup>我</sup>ハ<sup>ハ</sup>わ<sup>わ</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>こ  
みのゆ<sup>ゆ</sup>と<sup>と</sup>ひ<sup>ひ</sup>さ<sup>さ</sup>り。ま<sup>ま</sup>も<sup>も</sup>内<sup>内</sup>親<sup>親</sup>王<sup>王</sup>と<sup>と</sup>た<sup>た</sup>ま<sup>ま</sup>け<sup>け</sup>ま<sup>ま</sup>わ<sup>わ</sup>せ。掃<sup>掃</sup>行<sup>行</sup>に<sup>に</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>え<sup>え</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>せ  
て。首<sup>首</sup>飾<sup>飾</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>さ<sup>さ</sup>う<sup>う</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>ぬ。そ<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>お<sup>お</sup>の<sup>の</sup>お<sup>お</sup>の<sup>の</sup>神<sup>神</sup>田<sup>田</sup>の<sup>の</sup>解<sup>解</sup>款<sup>款</sup>守<sup>守</sup>於<sup>於</sup>不<sup>不</sup>  
の<sup>の</sup>刀<sup>刀</sup>祿<sup>祿</sup>お<sup>お</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>え<sup>え</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>と</sup>た<sup>た</sup>く。徳<sup>徳</sup>松<sup>松</sup>と<sup>と</sup>あり<sup>あり</sup>製<sup>製</sup>と<sup>と</sup>その<sup>の</sup>い<sup>い</sup>け。赤<sup>赤</sup>河<sup>河</sup>の<sup>の</sup>百<sup>百</sup>重<sup>重</sup>よ<sup>よ</sup>か<sup>か</sup>と<sup>と</sup>み  
門<sup>門</sup>と<sup>と</sup>ひ<sup>ひ</sup>ら<sup>ら</sup>た<sup>た</sup>を<sup>を</sup>さ<sup>さ</sup>う<sup>う</sup>く。ま<sup>ま</sup>今<sup>今</sup>も<sup>も</sup>み<sup>み</sup>れ<sup>れ</sup>ど<sup>ど</sup>も<sup>も</sup>今<sup>今</sup>も<sup>も</sup>ハ<sup>ハ</sup>あ<sup>あ</sup>ね<sup>ね</sup>バ<sup>バ</sup>。こ<sup>こ</sup>ハ<sup>ハ</sup>い<sup>い</sup>う<sup>う</sup>よ<sup>よ</sup>と<sup>と</sup>て  
ろ<sup>ろ</sup>倉<sup>倉</sup>人<sup>人</sup>室<sup>室</sup>の<sup>の</sup>二<sup>二</sup>人<sup>人</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>ね<sup>ね</sup>死<sup>死</sup>く。お<sup>お</sup>の<sup>の</sup>ち<sup>ち</sup>あ<sup>あ</sup>び<sup>び</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>さ<sup>さ</sup>ま<sup>ま</sup>る<sup>る</sup>に。人<sup>人</sup>ハ<sup>ハ</sup>さ<sup>さ</sup>う<sup>う</sup>あ<sup>あ</sup>も  
ち<sup>ち</sup>ね<sup>ね</sup>バ<sup>バ</sup>。ゆ<sup>ゆ</sup>め<sup>め</sup>もの<sup>の</sup>死<sup>死</sup>る<sup>る</sup>と<sup>と</sup>や<sup>や</sup>て。秘<sup>秘</sup>訓<sup>訓</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>が<sup>が</sup>な<sup>な</sup>る<sup>る</sup>よ<sup>よ</sup>は<sup>は</sup>ん<sup>ん</sup>お<sup>お</sup>の<sup>の</sup>れ<sup>れ</sup>ら  
と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>む<sup>む</sup>く。その<sup>の</sup>ち<sup>ち</sup>別<sup>別</sup>と<sup>と</sup>や<sup>や</sup>ひ<sup>ひ</sup>か<sup>か</sup>せん<sup>ん</sup>と<sup>と</sup>。解<sup>解</sup>款<sup>款</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>と<sup>と</sup>し

ワイタ



二。彼二人とてあむる。神田の館をさうしてふりぬ。

年 月





二彼二人とてあむる。神田の館みやうをさうしてふりぬ





